

「都市計画マスタープランの改定」、
「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針
等の改定」
及び
「第8回線引き全市見直し」
の基本的考え方について

(都市計画マスタープラン改定等検討小委員会)

令和4年7月14日(木)13時～

主な検討内容

今回

第1回

【令和4(2022)年7月14日】

- ・現行都市計画マスタープランの振り返り
- ・改定の基本的な考え方

第2回

【令和4(2022)年9月頃】

- ・目指すべき都市像

第3回

【令和4(2022)年11月頃】

- ・都市づくりのテーマと方針
- ・都市像の実現に向けた視点

第4回

【令和5(2023)年1月頃】

- ・第1～3回の振り返り
- ・答申原案
(都市計画マスタープラン、整開保等、線引き見直し基準)

第5回

【令和5(2023)年3月頃】

- ・答申(案)

1. 都市計画マスタープラン等とは
2. 横浜市の概況と歴史
3. 現行プランの振り返り
4. 改定の基本的な考え方
5. 次回以降の進め方

1. **都市計画マスタープラン等とは**
2. 横浜市の概況と歴史
3. 現行プランの振り返り
4. 改定の基本的な考え方
5. 次回以降の進め方

1. 都市計画マスタープラン等とは

都市計画マスタープラン…………… 市町村の都市計画に関する基本的な方針

都市計画区域の整備、開発…… 及び保全の方針(「整開保」) …… 線引き(区域区分)などの主要な都市計画の方針

3方針…………… 市街地の再開発を促進すべき地区等を示す。
(都市再開発の方針、住宅市街地の開発整備の方針、防災街区整備方針)

線引き(区域区分)…………… 整開保に即して行う、市街化区域と市街化調整区域との区分。

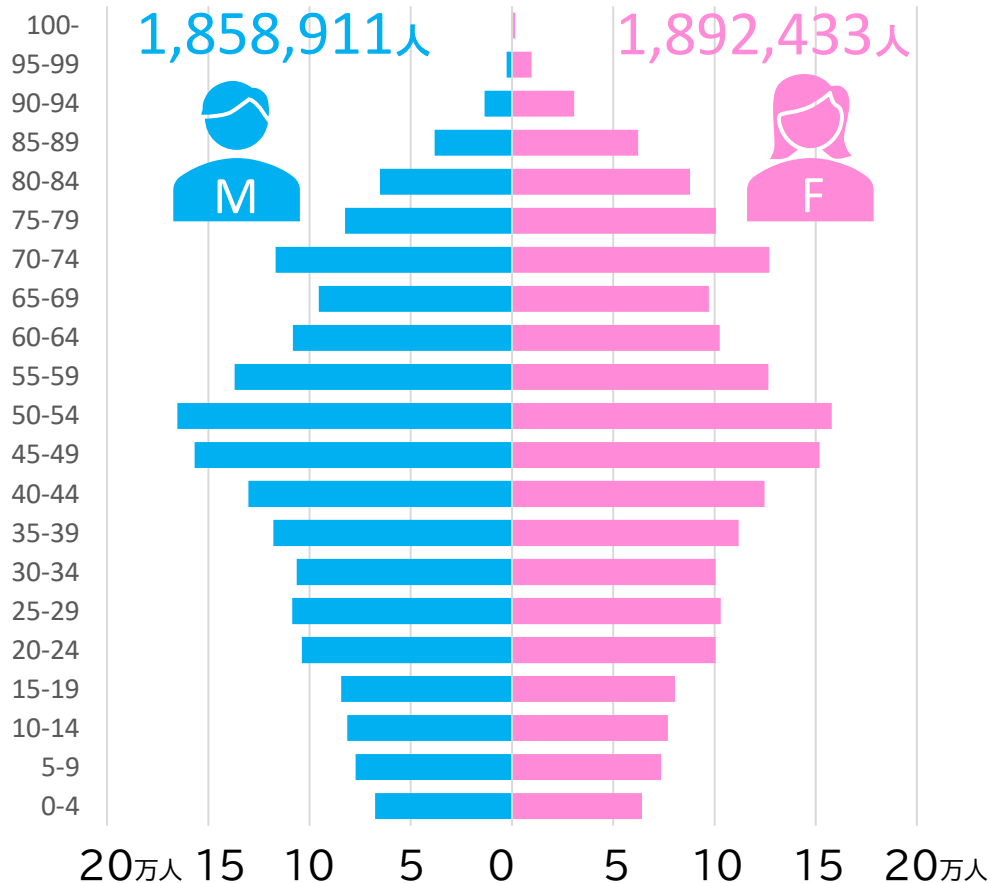
1. 都市計画マスタープラン等とは
- 2. 横浜市の概況と歴史**
3. 現行プランの振り返り
4. 改定の基本的な考え方
5. 次回以降の進め方

2. 横浜市の概況

▼ 総人口(2022.3)

49.6% **3,751,344人** 50.4%

▼ 年齢階層・男女別人口(2022.3)

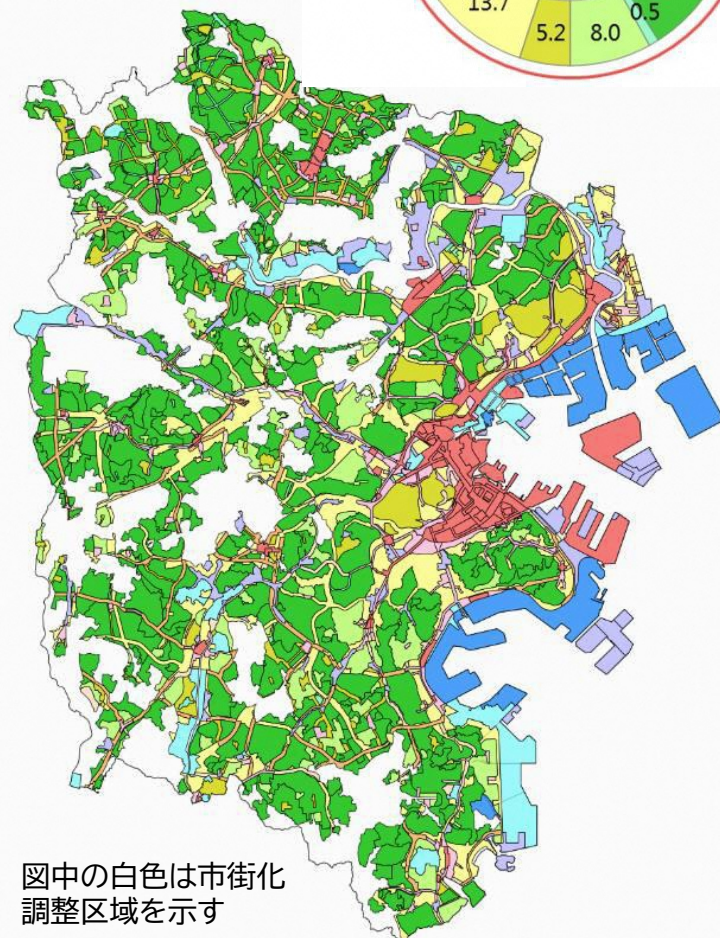
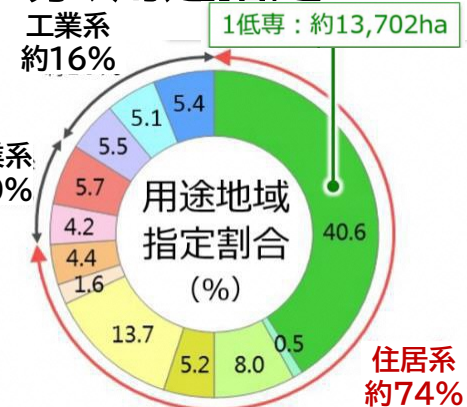


▼ 市域の面積、区域区分、用途指定

面積 **437.78 km²**

市街化区域 : 337.4km²

市街化調整区域: 99.1km²



2. 横浜市の概況

▼ 高齢者 (2022.3)



931,833人
(24.8%)

- 2013からの経年変化 ↑約18%

H25(2013)年 787,128人

- 全国平均 **28.9%**

2022.1 確定値 65歳以上 3,621.5万人

2022.1 確定値 総人口 1億2530.9万人

▼ 世帯数 (2022.3)



1,840,372世帯

- 2013からの経年変化 ↑約14%

H25(2013)年 1,617,839世帯

▼ 外国人の人口と割合 (2022.3)



98,752人

(2.6%) 本市人口に対する割合

上位3か国

- 中国	39%
- 韓国	12%
- ベトナム	9%

※()内は本市外国人人口総数に対する割合

全国(2021.6) **2,823,565人(2.2%)**

※()内は全国人口に対する外国人人口の割合

上位3か国

- 中国	26%
- ベトナム	16%
- 韓国	15%

※()内は外国人人口総数に対する割合

▼ 1世帯あたり人員 (2022.3)



2.04人

- 2013からの経年変化 ↓0.25人

H25(2013)年 2.29人

▼ GDP(名目)(2019)



14兆5255億円
(41.3%) 対神奈川県

- 2013からの経年変化 ↑約7%
H25(2013)年 13兆5364億円

▼ 市民所得(2019)



12兆6297億円

- 2013からの経年変化 ↑約8%
H25(2013)年 11兆6941億円

▼ 事業所数(2016)



114,930社

- 2012からの経年変化 ↑約0.4%
H24(2012)年 114,454社

▼ 従業者数(2016)



1,475,974人

- 2012からの経年変化 ↑約3%
H24(2012)年 1,428,600人

1. 都市計画マスタープラン等とは

2. 横浜市の概況と歴史

3. 現

・ 横浜の原風景 (～1859)

・ 文明開化の港町 (～1917)

4. 改

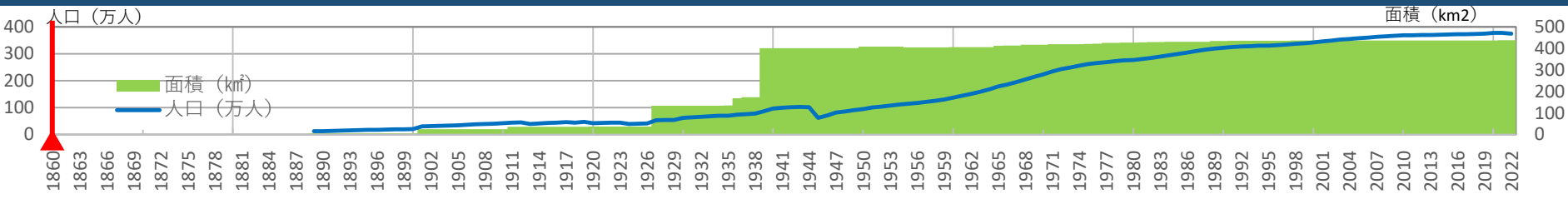
・ 震災・戦災からの復興 (～1950)

・ 都市の成長と構造変化 (～1988)

5. 次

・ 成長の時代からの転換 (1989 ～)

2. 横浜市の概況- (都市づくりの歴史)



横浜の原風景(~1859)

- かつては、**3700を超える谷戸地形**が全市域に広がっていた
- そうした地形を生かし、谷戸田と集落による、**里山環境**が作り出されてきた
- 江戸時代には、街道整備とあわせ、**神奈川宿、保土ヶ谷宿、戸塚宿**の3つの宿場が置かれた



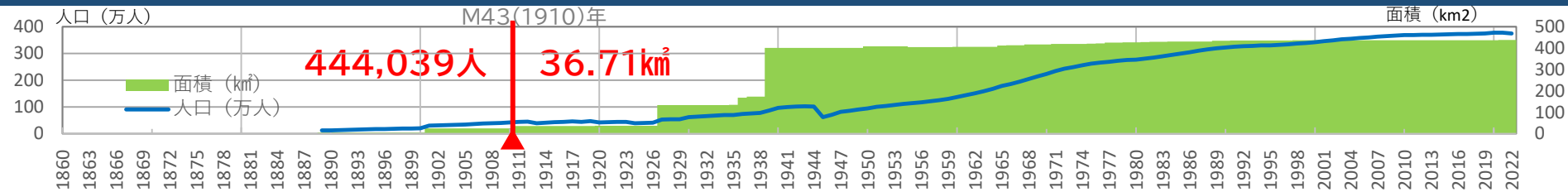
本牧の谷戸 (中区山手町からの眺望) 1870・11・16

本牧の谷戸(市民グラフヨコハマ)



加奈川浅間下より台を見る図(横浜市HP)

2. 横浜市の概況- (都市づくりの歴史)



文明開化の港町(~1917)

- **開港**により、商業貿易都市として発展
- ガス灯や鉄道等の西洋の新技术導入など、「**文明開化**」の**中心地**であり、生糸貿易を中心とした海外貿易が拡大
- 日露戦争による需要の高まりを背景とした**工業化の進展**

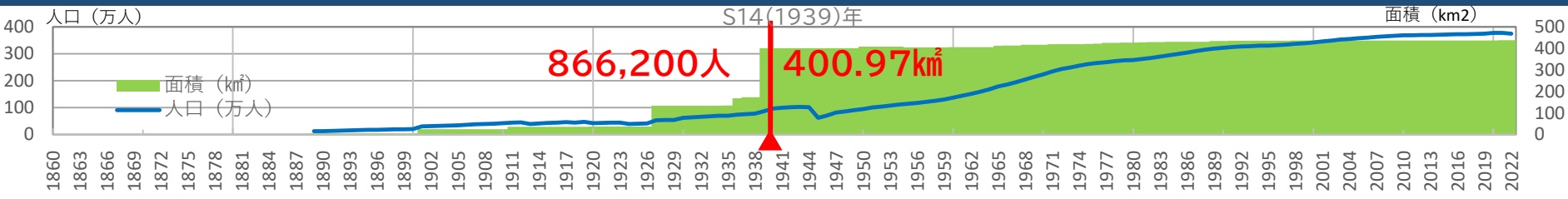


米国ペリー艦隊来襲



関内居留地と横浜港(Plan for YOKOHAMA)

2. 横浜市の概況- (都市づくりの歴史)



震災・戦災からの復興(~1950)

- 関東大震災により、**市内の95%以上の世帯が被災**
- 震災復興とあわせ、**臨海工業地帯の整備強化**を実施
- 第二次世界大戦により**市街地の42%を消失**
- 政府主導による復興事業も試みられたが、**市の中心部や港湾施設などが広範囲に接收**

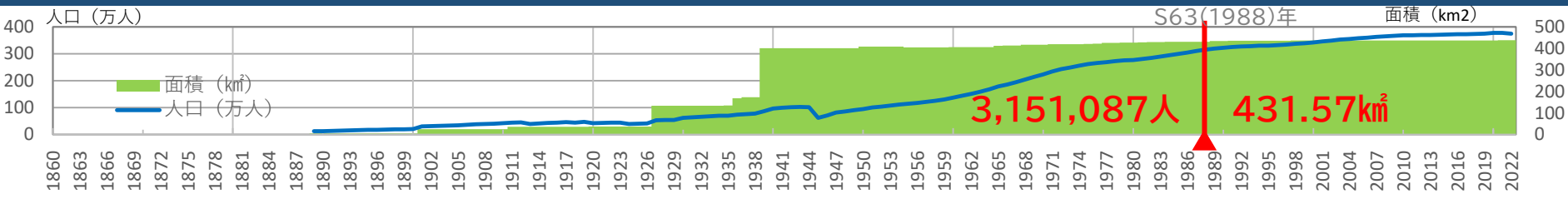


関東大震災の被災



戦災被災図

2. 横浜市の概況- (都市づくりの歴史)



都市の成長と構造変化(~1988)

- 東京への産業集中と周辺都市のベッドタウン化、市の積極的な工業化施策などにより、**都市問題が深刻化**
- 人口急増とスプロール化への対応のための**土地利用と開発のコントロール**
- 都市問題の解決を図る、戦略的な基幹事業である**6大事業**
(都心部強化事業、鉄道建設、道路網の整備、港北NT、金沢地先埋立、バイブリッジ建設)

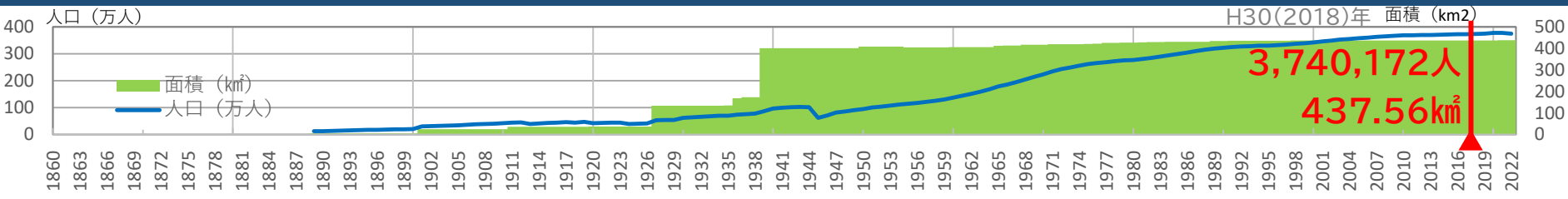


事業以前のみなとみらい地区



横浜バイブリッジ

2. 横浜市の概況- (都市づくりの歴史)



成長の時代からの転換(1989~)

- バブル経済の崩壊や、人口増加の停滞、高齢化の進展など**成長の時代からの転換**
- 地方分権改革による**地域に根ざした都市づくり**の役割と可能性の広がり
- 歴史的建造物や公共空間を活用した**創造都市施策**の展開や、**市民のまちづくり**への参画意識の高まり



横浜トリエンナーレ2001



市民ワークショップの様子

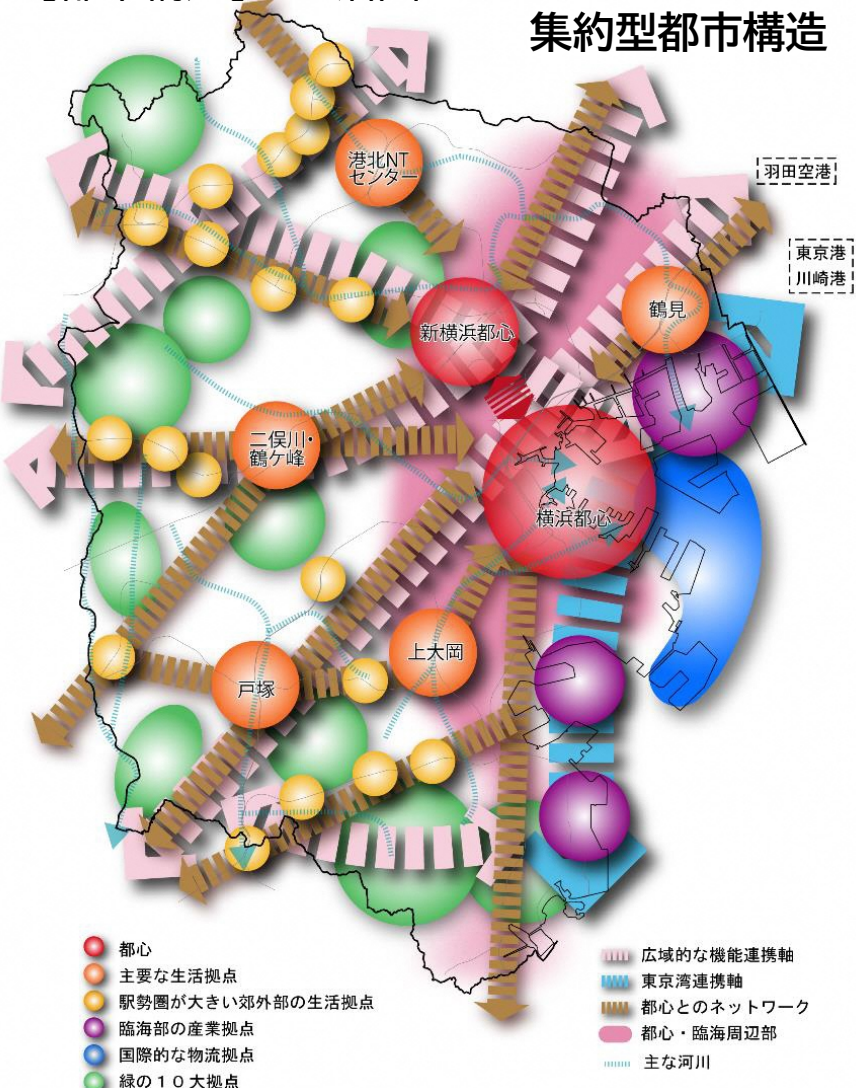
1. 都市計画マスタープラン等とは
2. 横浜市の概況と歴史
- 3. 現行プランの振り返り**
4. 改定の基本的な考え方
5. 次回以降の進め方

3. 現行プランの振り返り – 基本理念・都市構造・市街地像

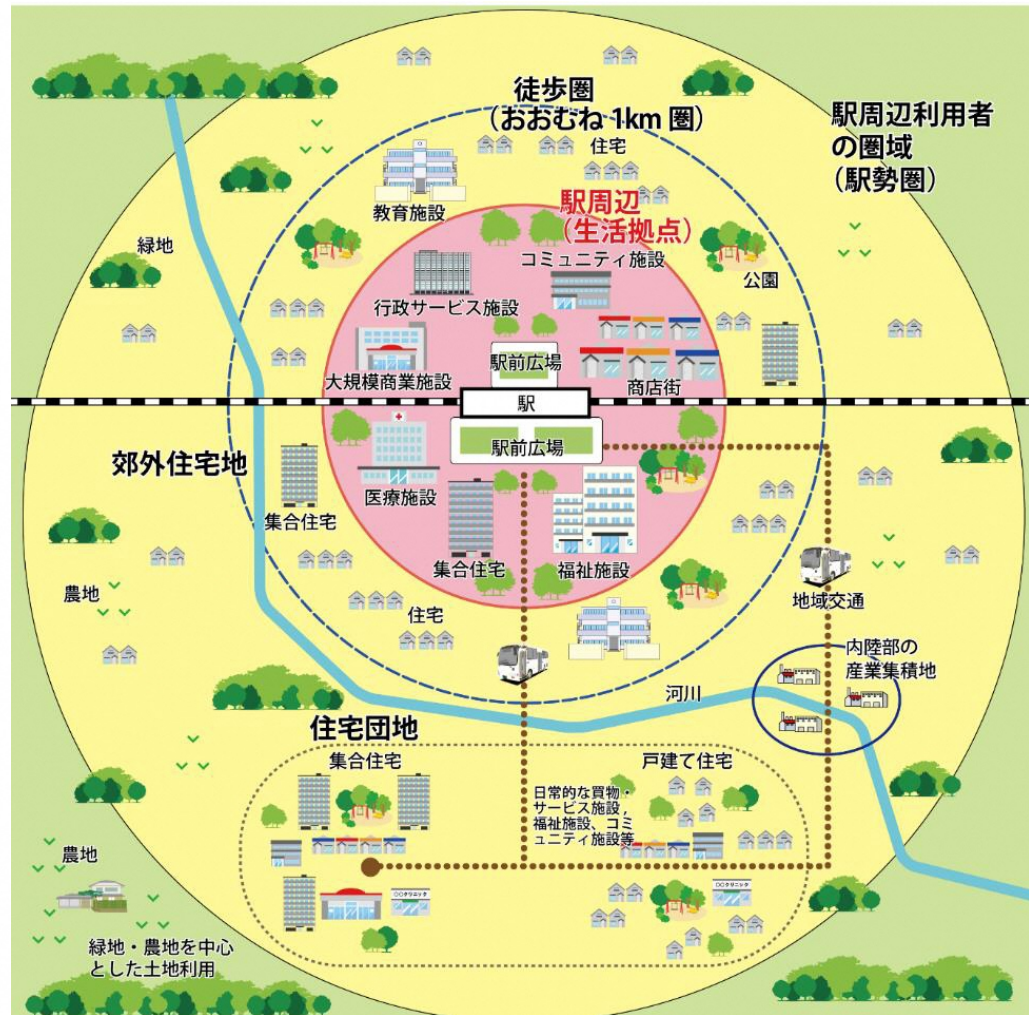
■策定年次…平成25 (2013)年 ■目標年次…令和7 (2025)年

【基本理念】～新しい横浜らしさの創造と持続を支える都市づくり～

【都市構造】…生活圏を基盤とした
集約型都市構造



【郊外部の市街地像】…鉄道駅を中心とした
コンパクトな市街地



3. 現行プランの振り返り - 都市づくりの基本理念、目標、方針

1 都市づくりの基本理念

～新しい横浜らしさの創造と持続を支える都市づくり～

- 超高齢社会や将来の人口減少社会の到来を見据え、環境に配慮した持続可能な都市の構築
- 港、水・緑、歴史、文化など、横浜の持つ資産や環境を生かしたまちづくり
- 市民生活の利便と安全安心を支えるとともに、国際競争力の強化を図るための基盤づくり

2 都市づくりの目標

- ①超高齢社会や将来の人口減少社会に対応できる「**集約型都市構造**」への転換と、人にやさしい「**鉄道駅を中心としたコンパクトな市街地形成**」
- ②地球温暖化やヒートアイランド現象の緩和に向けた、エネルギー効率のよい**低炭素型の都市づくり**
- ③首都圏全体の発展をけん引するとともに、**国際競争力**を高めるための**基盤づくり**
- ④地域特性に応じた、**計画的・効率的な土地利用と地域まちづくり**
- ⑤**誰もが移動しやすく環境にやさしい交通**の実現
- ⑥**横浜らしい水・緑環境の実現**と、都市の魅力を生かした**まちづくり**
- ⑦震災や風水害などの自然災害に強い、**安全安心のまちづくり**

都市構造

3 都市づくりの方針

土地利用	バランスのある土地利用 市街地開発・拠点整備	ゾーンごとの土地利用方針 自然的環境の保全
都市交通	人にやさしい交通	誰もが移動しやすい交通
都市環境	低炭素型都市づくり	生物多様性 水と緑の保全 生活環境保全
都市の魅力	都市デザイン・創造都市	市民生活・地域の魅力向上
都市活力	産業基盤強化 MICE・観光機能強化	市民生活の利便性向上
都市防災	減災都市づくり 復興都市づくり	災害時の都市機能確保 防災・防犯力向上

3. 現行プランの振り返り - 振り返りの取りまとめ方

都市づくりの基本理念 ～新しい横浜らしさの創造と持続を支える都市づくり～

目標①
集約型都市構造
コンパクトな
市街地形成

目標②
低炭素型の
都市づくり

目標③
国際競争力を高
める基盤づくり

目標④
計画的・効率的
な土地利用と
地域まちづくり

目標⑤
誰もが移動しや
すい交通の実現

目標⑥
横浜らしい都市
の魅力を生かし
たまちづくり

目標⑦
安全安心の
まちづくり

主な取組

- ・都心部
- ・鉄道駅周辺
- ・郊外住宅地 等

主な取組

- ・CO2排出削減
- ・循環型社会 等

主な取組

- ・産業・研究拠点
- ・イノベーション
- ・港湾機能 等

主な取組

- ・土地利用誘導
- ・住環境整備 等

主な取組

- ・拠点へアクセス
- ・地域交通
- ・回遊性 等

主な取組

- ・歴史・景観
- ・水と緑の保全
- ・文化・芸術 等

主な取組

- ・地震対策
- ・風水害対策
- ・ソフト対策 等

まとめ①

まとめ②

まとめ③

まとめ④

まとめ⑤

まとめ⑥

まとめ⑦

共通指標 (人口、市内総生産(名目)、地価、個人市民税・法人市民税の推移 等)

総合評価

目標①：「集約型都市構造」への転換と「コンパクトな市街地形成」

目標①
集約型都市構造
コンパクトな
市街地形成

目標②
低炭素型の
都市づくり

目標③
国際競争力を高
める基盤づくり

目標④
計画的・効率的
な土地利用と
地域まちづくり

目標⑤
誰もが移動しや
すい交通の実現

目標⑥
横浜らしい都市
の魅力を生かし
たまちづくり

目標⑦
安全安心の
まちづくり

主な取組

・都心部
・鉄道駅周辺
・郊外住宅地 等

主な取組

・CO2排出削減
・循環型社会
等

主な取組

・産業・研究拠点
・イノベーション
・港湾機能 等

主な取組

・土地利用誘導
・住環境整備
等

主な取組

・拠点へアクセス
・地域交通
・回遊性 等

主な取組

・歴史・景観
・水と緑の保全
・文化・芸術 等

主な取組

・地震対策
・風水害対策
・ソフト対策 等

まとめ①

まとめ②

まとめ③

まとめ④

まとめ⑤

まとめ⑥

まとめ⑦

共通指標 (人口、市内総生産(名目)、地価、個人市民税・法人市民税の推移 等)

総合評価

(現行プラン)都市づくりの目標

①超高齢社会や将来の人口減少社会に対応できる「集約型都市構造」への転換と、人にやさしい「鉄道駅を中心としたコンパクトな市街地形成」

②地球温暖化やヒートアイランド現象の緩和に向けた、エネルギー効率のよい低炭素型の都市づくり

③首都圏全体の発展をけん引するとともに、国際競争力を高めるための基盤づくり

④地域特性に応じた、計画的・効率的な土地利用と地域まちづくり

⑤誰もが移動しやすく環境にやさしい交通の実現

⑥横浜らしい水・緑環境の実現と、都市の魅力を生かしたまちづくり

⑦震災や風水害などの自然災害に強い、安全安心のまちづくり



目標①の具体的な内容

①都心部

- ・ 都心として必要な機能集積

② 鉄道駅周辺

- ・ 地域特性に応じた、鉄道駅を中心とした機能集積

③ 郊外住宅地

- ・ 環境配慮住宅など多様な住宅の供給や安心して子どもを産み育てられる環境を整備

● その他の取組

- ・ 鉄道や道路などの交通施設整備
- ・ きめ細かい地域交通サービスの確保

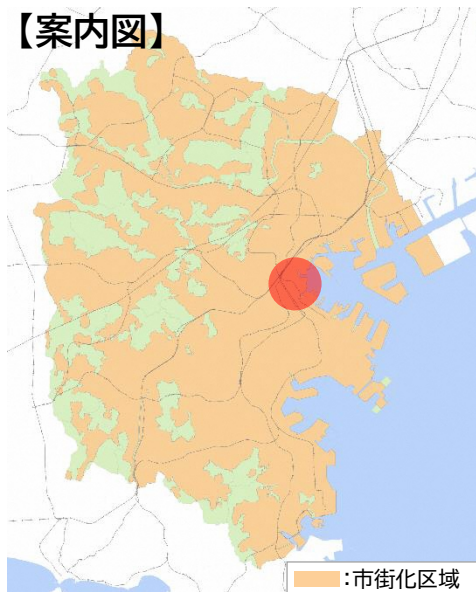
など

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼

H25(2013) H26(2014) H27(2015) H28(2016) H29(2017) H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023) R6(2024) R7(2025)

【案内図】



【主な取組】

【都心部】

- JR横浜タワーのオープン (R2(2020)年6月)
- 横浜駅中央西口駅前広場の整備 (R4(2022)年度まで(予定))
- みなとみらい21地区の街区開発の進展
(H25(2013)年の進捗率86%→R4(2022)年1月時点で96%)
- 横浜ベイタワー【アパホテル&リゾート】 (R1(2019)年9月)
- ザ・タワー横浜北仲 (R1(2019)年10月)
- 横浜市新市庁舎供用開始 (R2(2020)年6月)
- 桜木町駅新改札口供用開始 (R2(2020)年6月)

など

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼

H25(2013) H26(2014) H27(2015) H28(2016) H29(2017) H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023) R6(2024) R7(2025)

■都心部地区

JR横浜タワー(R2(2020)年6月)



【JR横浜タワー(全景)】

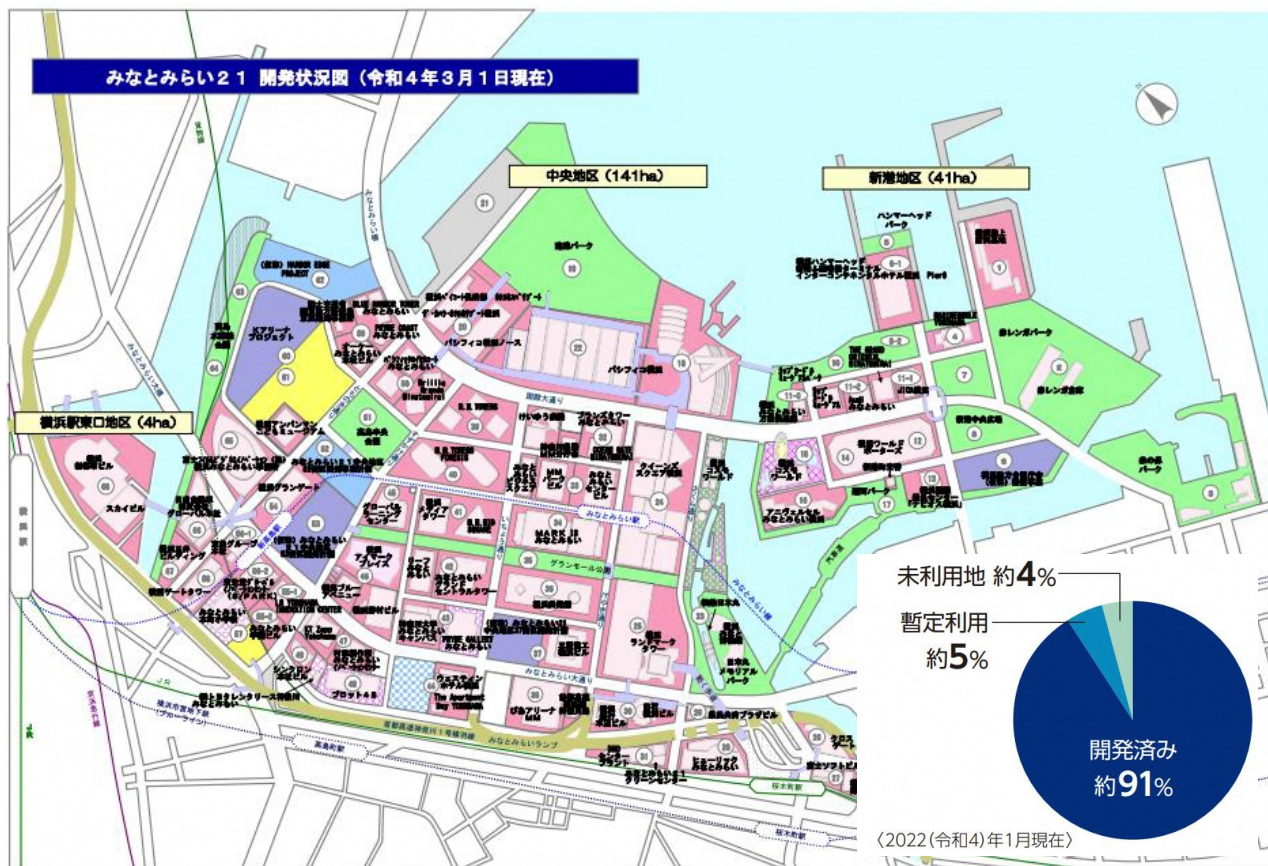
雨水貯留施設
(地下:約200m³)



【完成イメージ 中央西口駅前広場】

■みなとみらい21地区

街区開発の進展



みなとみらい21地区 開発進捗率(暫定利用含む)

H25(2013)年 86% → R4(2022)年 96%

【みなとみらい21地区 街区開発状況図】

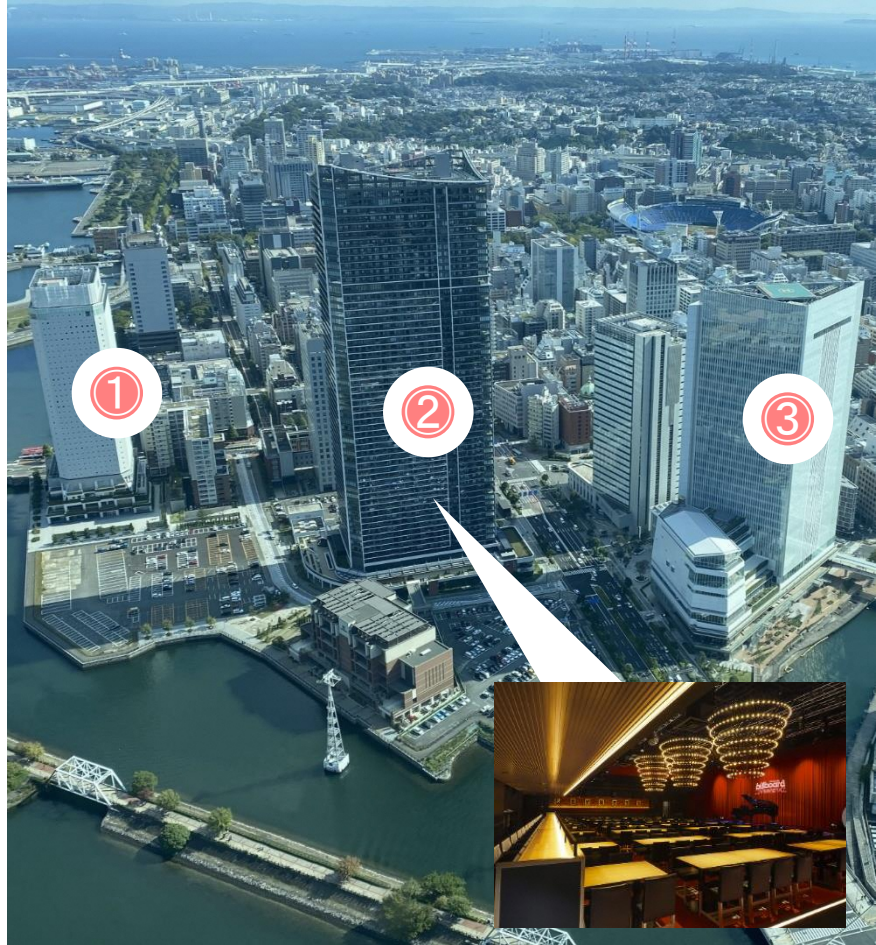
目標①：「集約型都市構造」・「コンパクトな市街地形成」、目標②、③、④、⑤、⑥、⑦

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



■ 関内・関外地区 北仲通地区



- ① 横浜ベイタワー【アパホテル&リゾート】(R1(2019)年9月)
- ② ザ・タワー横浜北仲 (R1(2019)年10月)
- ③ 横浜市新市庁舎 (R2(2020)年6月)

関内駅周辺地区



市役所跡地を中心とした、『国際的な産学連携』『観光・集客』による新たなまちづくり(R4(2022)年7月着工)

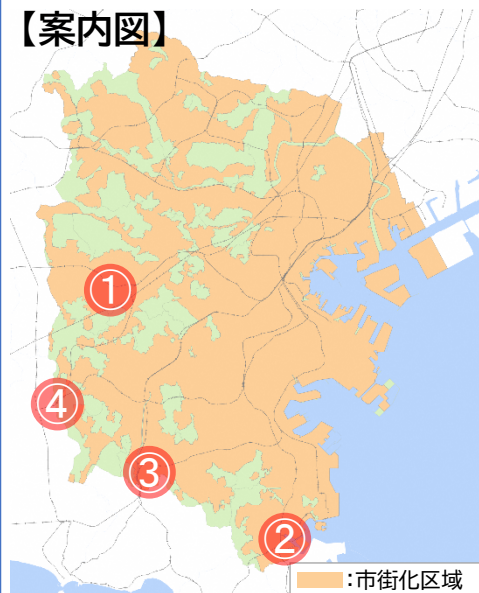
目標①：「集約型都市構造」・「コンパクトな市街地形成」、目標②、③、④、⑤、⑥、⑦

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



【案内図】



【主な取組】

【鉄道駅周辺】

- ① 二俣川駅南口再開発ビル (H30(2018)年竣工)
- ② 金沢八景東口 (H31(2019)年3月供用開始)
- ③ 大船駅北第二地区 (R5(2023)年事業完了予定)
- ④ 泉ゆめが丘地区 (R7(2025)年事業完了予定)

等の拠点整備 など

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



① 二俣川駅南口再開発ビル(H30(2018)年竣工)



- 街路整備事業と一体的に、交通広場の拡幅再整備や商業・業務施設及び住宅建設
- 事業面積：約1.9ha
- 総事業費：423億円



【再開発ビルの全景】

② 金沢八景東口(H31(2019)年3月供用開始)



- 土地区画整理事業により、歩道、駅、公園等を一体的に整備。
- 事業面積：約2.4ha
- 総事業費：約91億円
(平成31(2018)年3月現在)



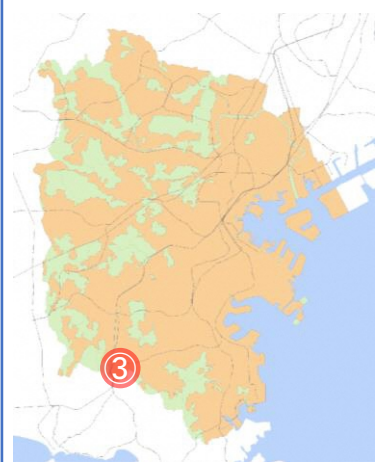
【区画整理事業の全景】

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



③ 大船駅北第二地区(R5(2023)年事業完了予定)

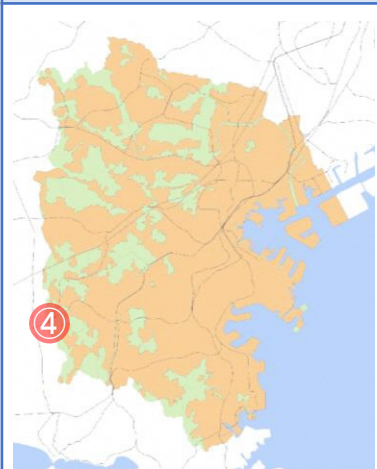


- 交通広場や商業・業務・住宅等を整備し、賑わいの創出や利便性・安全性の向上を図る。
- 事業面積:約1.7ha
- 総事業費:約300億円



【完成イメージ】

④ 泉ゆめが丘地区(R7(2025)年事業完了予定)



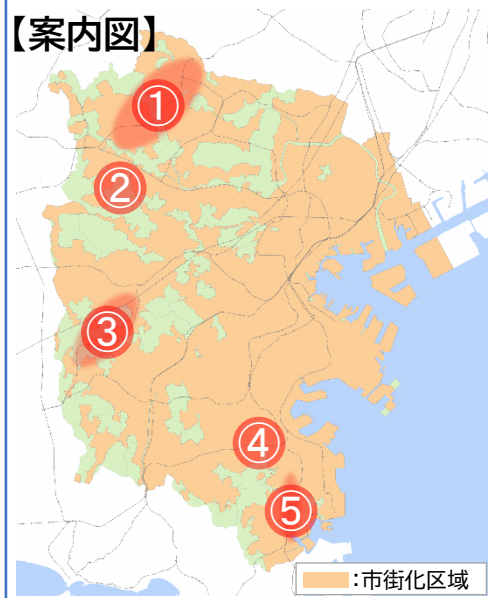
- 下飯田駅、ゆめが丘駅、環状4号線の交通ネットワークを活用し、駅前拠点市街地として計画的な街づくりを進める。
- 事業面積:約24.5ha
- 総事業費:約109億円



【完成イメージ】

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



【案内図】

【主な取組】

【郊外住宅地】

■持続可能な郊外住宅地の推進

- ① 東急田園都市線沿線地域
- ② 緑区十日市場周辺地域
- ③ 相鉄いずみ野線沿線地域
- ④ 磯子区洋光台周辺地区
- ⑤ 京急沿線南部地域



【洋光台中央広場のリニューアル】
H30(2017)年8月



【まちまど-洋光台オープン】
R1(2019)年5月



【洋光台北団地集会所オープン】
R2(2020)年11月

④【磯子区洋光台周辺地区におけるプロジェクトの主な歩み】

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼

①H25.6 基本構想2013策定

①H28.7 コミュニ・リビングの取組開始

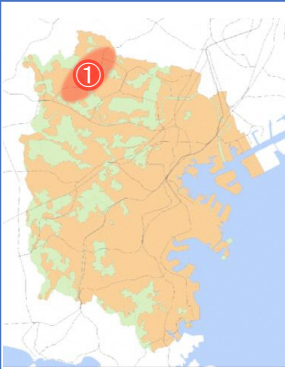
①R1.12 地域交流拠点(青葉台郵便局)開業

②H28.4 事業実施協定締結

②R1.3 高齢者向け賃貸住宅供用開始

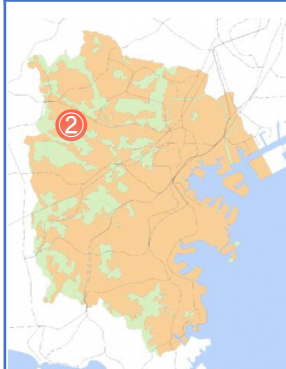
H25(2013) H26(2014) H27(2015) H28(2016) H29(2017) H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023) R6(2024) R7(2025)

① 東急田園都市線沿線地域



- 平成24(2012)年4月に横浜市と東急電鉄が「次世代郊外まちづくり」の推進に関する包括的協定を締結
- 「青葉区たまプラーザ駅北側地区」をモデル地区に職住近接や地域移動等の取組を実施中。

② 緑区十日市場周辺地域



- 平成28(2016)年3月に横浜市と東急電鉄等と協定を締結し、郊外部の再生・活性化に50年間継続してまちづくりに取り組む。
- 子育てを支援し交流を促進する施設としてシェア共用部を日常的な交流の場として提供予定。



【コミュニティ・リビングの概念図】

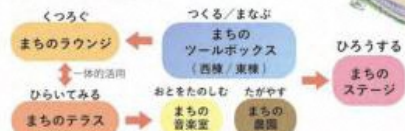
(多世代・多様な住民が交流し、活動する地域リビングルーム)



◀【対象地】



シェア共用部の機能のダイアグラム



【シェア共用部の全体図(イメージ)】

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼

③H25.4 協定締結	③H26.4 比「リイ」実証実験	③H29.12 IoT777ホーム実証実験	③R2.12 緑園街マルシェ	③R4.3 やよい祭						
		⑤H30.7 協定締結	⑤R3.1 まちづくり通信発行							
H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	⑤H30.10 とみおかーと実証実験(～R4)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)

③ 相鉄いずみ野線沿線地域



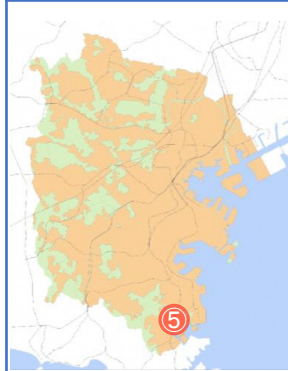
- 平成25(2013)年4月に、多様な年齢層にとって住みやすいまちづくりを推進するため、相鉄HDと「次代のまちづくりの推進に関する協定」を締結。
- 市民、大学、行政、民間企業の協働によるまちづくりを実践



【まちづくりの取組の様子】

写真：【左上】いずみ野マルシェ(第4回)(いずみ野駅周辺エリア)、【左下】南万騎が原駅周辺リノベーションプロジェクト「みなまきの広場をみんなでつくろう！」ワークショップ(南万騎が原駅周辺エリア)、【右上】えきばた会議(緑園都市駅周辺エリア)、【右下】街カフェ(第2回)(緑園都市駅周辺エリア)

⑤ 京急沿線南部地域



- 平成30(2018)年7月に、住みたい、住み続けたい、訪れたいと思えるまちづくりを推進するため、京急電鉄と協定を締結
- まちづくりイメージブックを通じた、まちの課題解決や魅力向上、地域交通の導入を実践



【京急沿線(横浜市南部地域)】

【まちづくりイメージブック】
(R3(2021)年3月発行)

(再掲) 目標①の具体的な内容

①都心部

- ・ 都心として必要な機能集積

② 鉄道駅周辺

- ・ 地域特性に応じた、鉄道駅を中心とした機能集積

③ 郊外住宅地

- ・ 環境配慮住宅など多様な住宅の供給や安心して子どもを生き育てられる環境を整備

● その他の取組

- ・ 鉄道や道路などの交通施設整備
- ・ きめ細かい地域交通サービスの確保

など



目標①に対するまとめ

①都心部

各エリア(横浜駅・MM21・関内関外等)の特性に応じた都市機能の集積が進んだが、引き続き、都市のエンジンとして更なる賑わい・活性化の取組が必要。

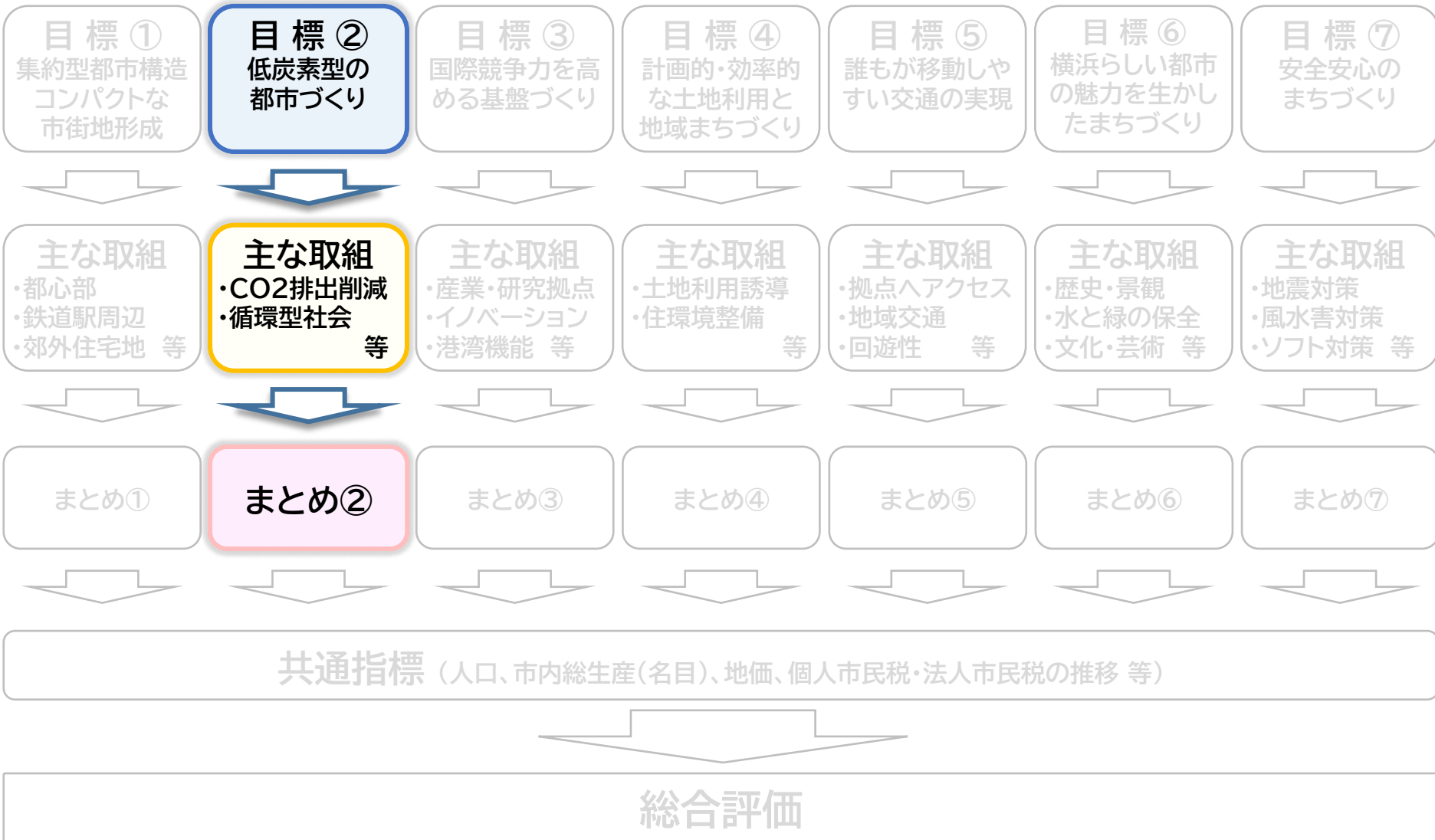
②鉄道駅周辺

市街地開発事業などにより、地域に応じた機能集積と基盤施設の整備が進んだが、地域の要望も強い事業中の地区等での着実な事業推進が必要。

③郊外住宅地

多世代向け分譲住宅や高齢者向け賃貸住宅等の整備等により、誰もが暮らしやすい街の実現を進めたが、市内郊外部全体の取組には至っていない。

目標②：エネルギー効率の良い 「低炭素型のまちづくり」



(現行プラン)都市づくりの目標

①超高齢社会や将来の人口減少社会に対応できる「集約型都市構造」への転換と、人にやさしい「鉄道駅を中心としたコンパクトな市街地形成」

②地球温暖化やヒートアイランド現象の緩和に向けた、エネルギー効率のよい低炭素型の都市づくり

③首都圏全体の発展をけん引するとともに、国際競争力を高めるための基盤づくり

④地域特性に応じた、計画的・効率的な土地利用と地域まちづくり

⑤誰もが移動しやすく環境にやさしい交通の実現

⑥横浜らしい水・緑環境の実現と、都市の魅力を生かしたまちづくり

⑦震災や風水害などの自然災害に強い、安全安心のまちづくり

目標②の具体的な内容

① 持続可能な都市の実現

- ・ エネルギーの効率的な利用を促進することで持続可能な都市の実現

② ヒートアイランド対策

- ・ 地域特性に応じたヒートアイランド現象緩和策(地表面や建物外壁等の改良や緑化、排熱の抑制、地域を冷却する風の利用)

● その他の取組

- ・ スマートコミュニティの構築
- ・ 地域冷暖房の推進などの地域エネルギー基盤の整備
- ・ 都市施設を環境配慮型へ整備・誘導
- ・ 低公害車の普及拡大に向けた基盤整備 など

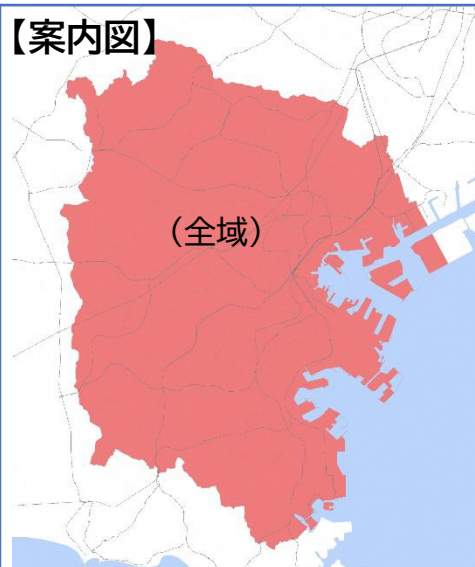
①、目標②：エネルギー効率のよい「低炭素型のまちづくり」、目標③、④、⑤、⑥、⑦

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼

H25(2013) H26(2014) H27(2015) H28(2016) H29(2017) H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023) R6(2024) R7(2025)

【案内図】

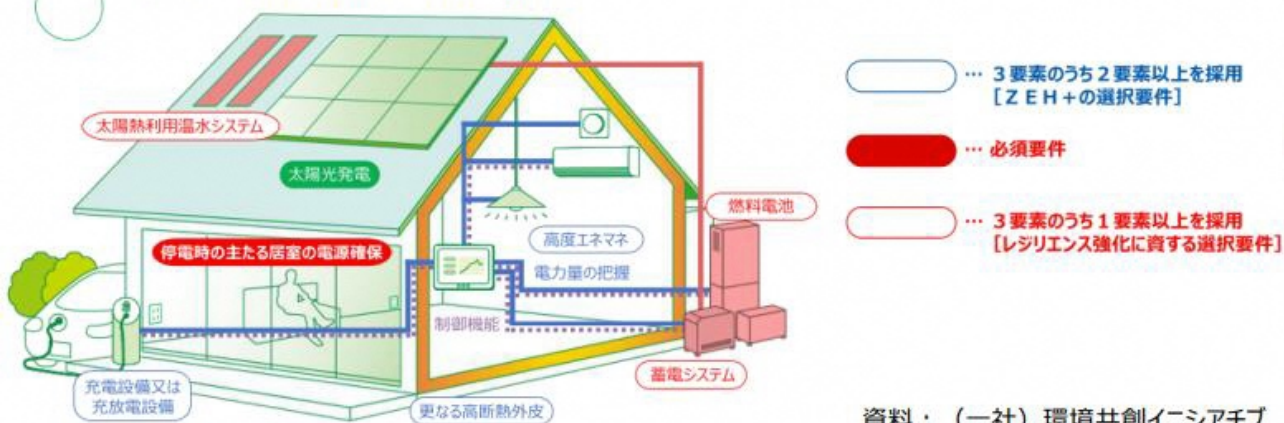


【主な取組】

【エネルギーの効率化】

- 断熱・気密性の確保や、創電、蓄電により自律的にエネルギーを確保できる住宅の整備
- 公用車への次世代自動車の導入や燃料電池バスの運行推進 等

(参考) ZEH+R の概念図



資料：(一社)環境共創イニシアチブ



【燃料電池(水素)バス】



【公用車への次世代自動車導入】

【災害時にも役立つレジリエンス性能の高いZEH等(横浜市住宅政策審議会)】

①、目標②：エネルギー効率のよい「低炭素型のまちづくり」、目標③、④、⑤、⑥、⑦

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



【案内図】

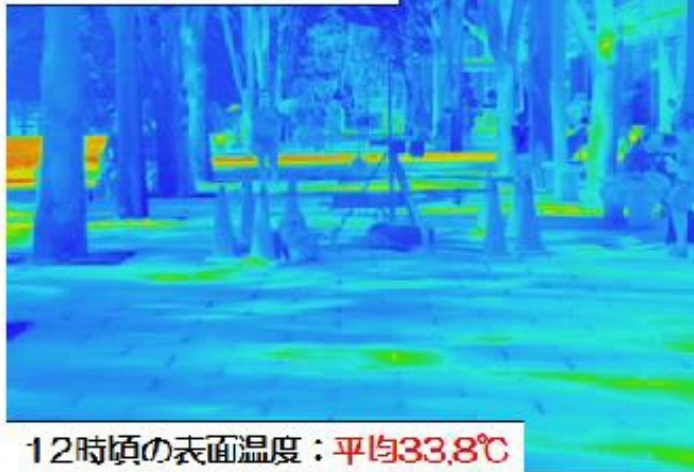


【主な取組】

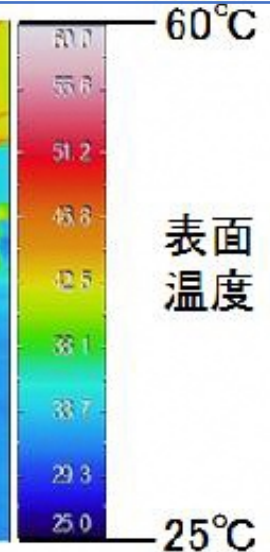
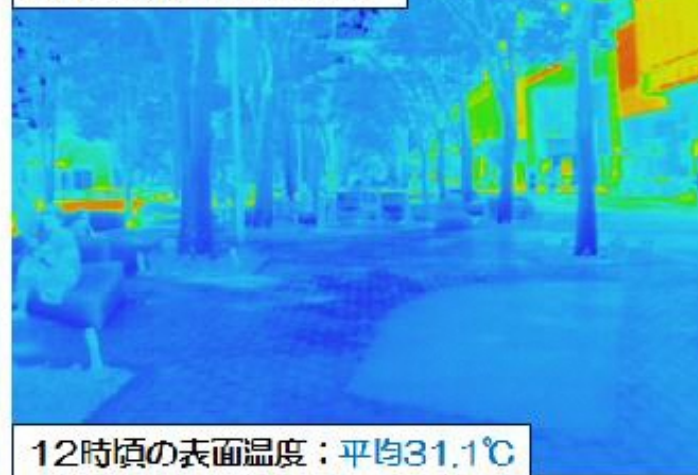
【ヒートアイランド対策】

- 公園の再整備等により、再整備前と再整備後の熱環境を調査し、再整備前と比べ、緑が増えて大きな緑陰が形成された効果により、夏場の地表面の気温上昇を抑制 等

公園再整備前 (2014年夏)



公園再整備後 (2018年夏)



【グランモール公園での熱環境調査(環境創造局)】

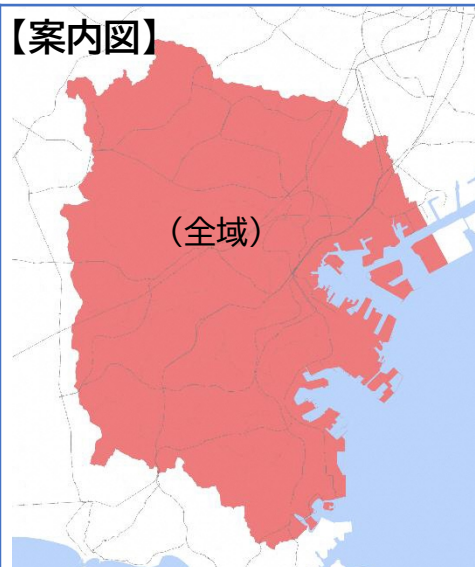
①、目標②：エネルギー効率のよい「低炭素型のまちづくり」、目標③、④、⑤、⑥、⑦

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



【案内図】

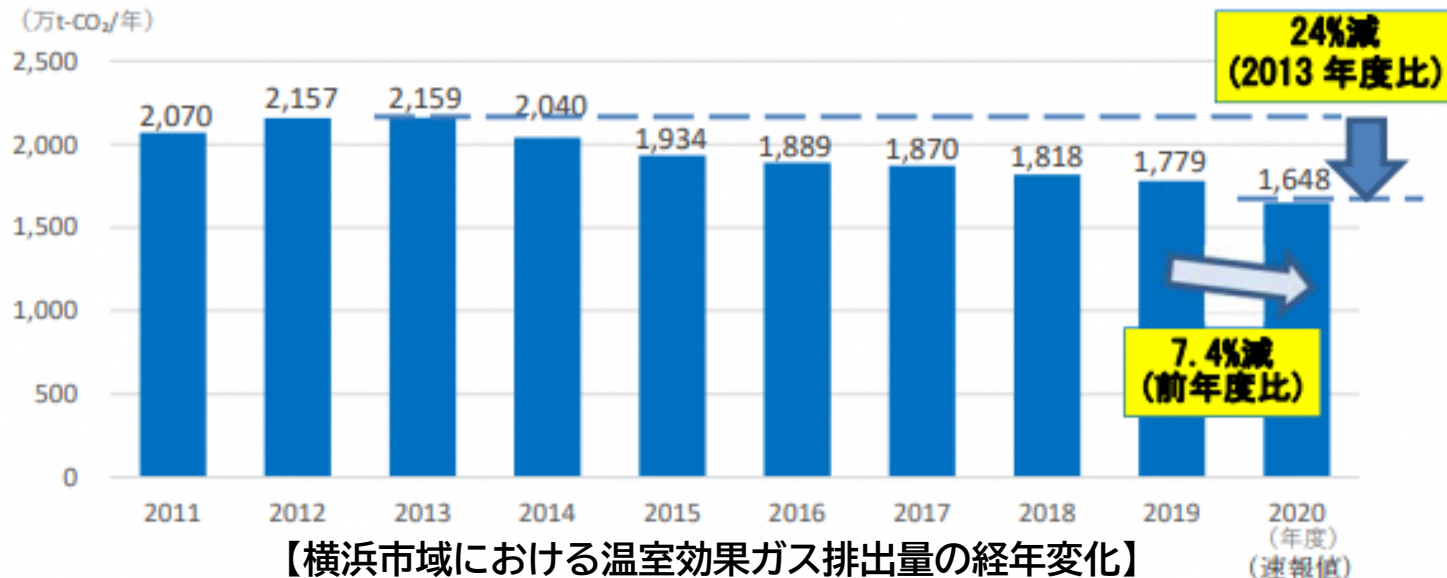


【主な取組】

【温室効果ガス排出量の削減】

- エネルギーの効率的な利用促進等により、R2(2020)年度の横浜市域からの温室効果ガス排出量(速報値)は1,648万トン-CO₂となり、削減目標の基準年である2013年度比から24%の減少
- R3(2021)年6月、横浜市脱炭素社会の形成の推進に関する条例(脱炭素条例)策定

温室効果ガス排出量
(万t-CO₂/年)



【横浜市域における温室効果ガス排出量の経年変化】

(再掲) 目標②の具体的な内容**① 持続可能な都市の実現**

- ・ エネルギーの効率的な利用を促進することで持続可能な都市の実現

② ヒートアイランド対策

- ・ 地域特性に応じたヒートアイランド現象緩和策(地表面や建物外壁等の改良や緑化、排熱の抑制、地域を冷却する風の利用)

● その他の取組

- ・ スマートコミュニティの構築
- ・ 地域冷暖房の推進などの地域エネルギー基盤の整備
- ・ 都市施設を環境配慮型へ整備・誘導
- ・ 低公害車の普及拡大に向けた基盤整備

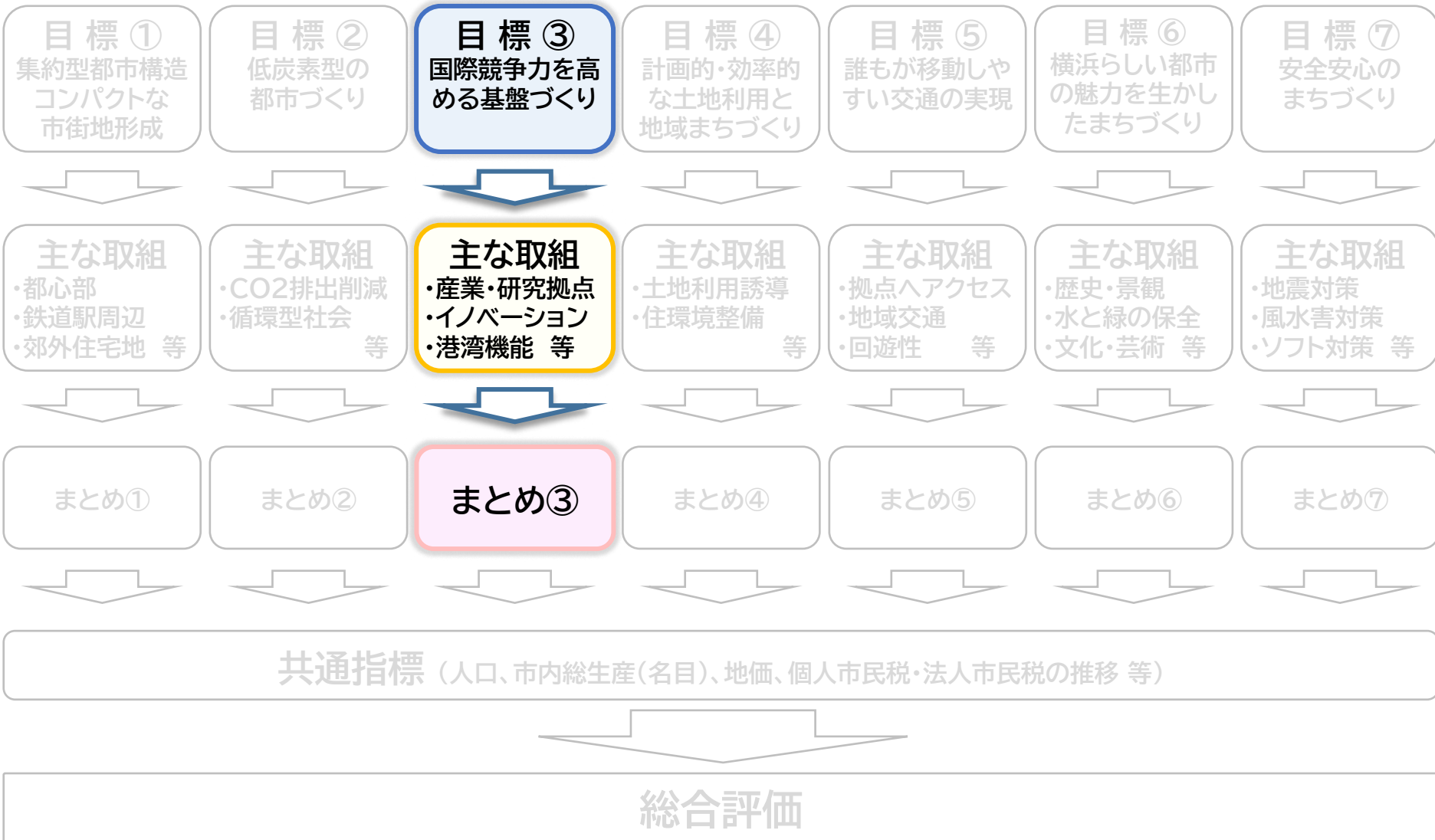
**目標②に対するまとめ****① 持続可能な都市の実現**

- 届出制度や認証・認定制度の活用により環境に配慮した建築物の整備を推進した。
- 公用車への燃料電池自動車やプラグインハイブリッド車の導入、補助金導入等、低公害車の普及拡大に向けた基盤整備を進めた。
- 温室効果ガス排出量は削減したものの、脱炭素には至っていない
(H25(2013)からR2(2020)年にかけて24%減)

② ヒートアイランド対策

- 市内の平均気温は上昇傾向にあり、更なるヒートアイランド対策の取組が必要
(年平均気温は1897年からH30(2018)年の100年あたりで1.9℃の割合で上昇)

目標③：国際競争力を高めるための基盤づくり



(現行プラン)都市づくりの目標

①超高齢社会や将来の人口減少社会に対応できる「集約型都市構造」への転換と、人にやさしい「鉄道駅を中心としたコンパクトな市街地形成」

②地球温暖化やヒートアイランド現象の緩和に向けた、エネルギー効率のよい低炭素型の都市づくり

③首都圏全体の発展をけん引するとともに、**国際競争力を高めるための基盤づくり**

④地域特性に応じた、計画的・効率的な土地利用と地域まちづくり

⑤誰もが移動しやすく環境にやさしい交通の実現

⑥横浜らしい水・緑環境の実現と、都市の魅力を生かしたまちづくり

⑦震災や風水害などの自然災害に強い、安全安心のまちづくり



目標③の具体的な内容

① 京浜臨海部等の産業拠点

- ・ **世界最高水準の研究開発機能の強化**

② 港湾機能の強化

- ・ **国際ハブポートの実現**
- ・ **高速道路などの基盤整備**
- ・ 羽田空港とのアクセス強化

③ イノベーションの推進

- ・ 産業の創造と革新効率よく実現する **ハード、ソフトの事業環境の充実**

○ その他

- ・ グローバル企業の受皿となる開発促進や外国人の生活・就業環境などの整備
- ・ 市域全体での文化芸術などにより都市の魅力向上 など

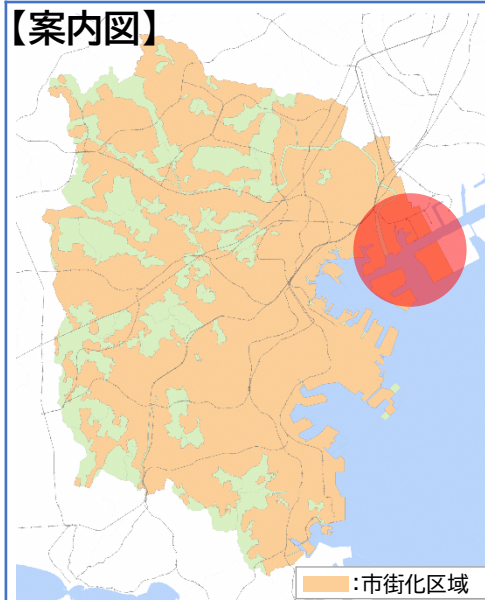
①、②、目標③：国際競争力を高めるための基盤づくり、④、⑤、⑥、⑦

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



【案内図】



【主な取組】

【京浜臨海部等の産業拠点】

- AGC横浜テクニカルセンターのオープン(R3(2021)年6月)
- 京浜臨海部守屋・恵比寿地区において、民間事業者による研究開発拠点となる複合施設「共創の舞台」が開所(R4(2022)年5月)
- 産業振興とまちづくりを一体的に進め、地区の特性や魅力を最大限活用した新たな企業誘致・集積を進めるため、「京浜臨海部再編整備マスタープラン」を改定(H30(2018)年9月)



AGC横浜テクニカルセンターの外観

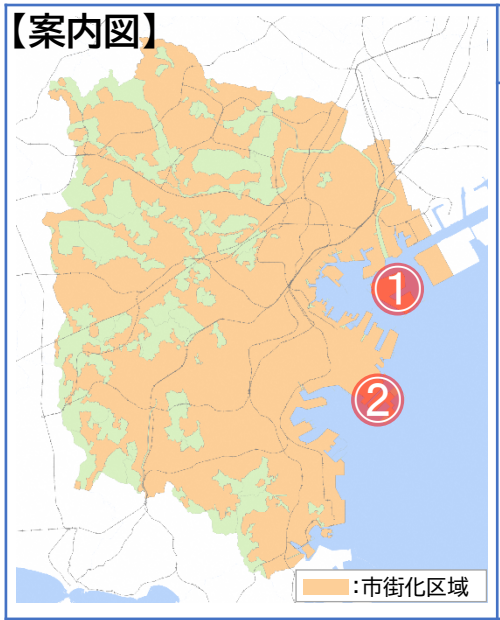


研究開発複合施設「共創の舞台」(昭和電工株式会社)の外観

①、②、目標③：国際競争力を高めるための基盤づくり、④、⑤、⑥、⑦

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼

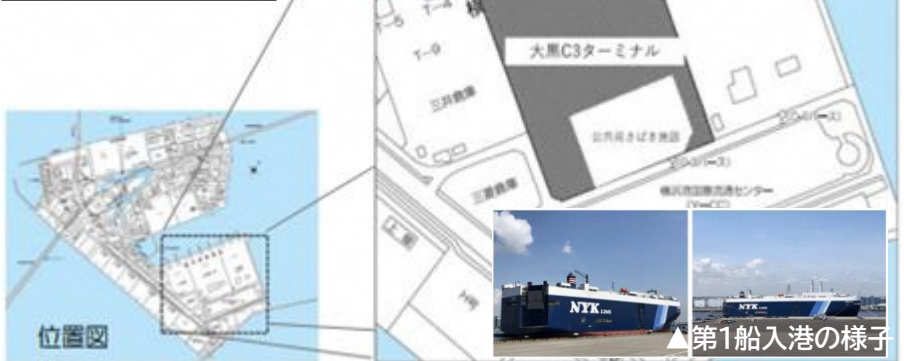


【主な取組】

【港湾機能の強化】

- 国際競争力のある港、市民が集い、憩う港、安全・安心で環境にやさしい港を目標に、横浜港港湾計画を改定(H26(2014)年)
- ① 大黒ふ頭の自動車取扱機能強化に向けたC3ターミナル再整備 (R2(2020)年8月)
- ② 横浜港南本牧ふ頭MC4コンテナターミナル本格供用開始 (R3(2021)年4月)

施設概要	
ターミナル面積	127,666 m ²
バース延長	350m
水深	15m



① 大黒ふ頭C3ターミナルの概要



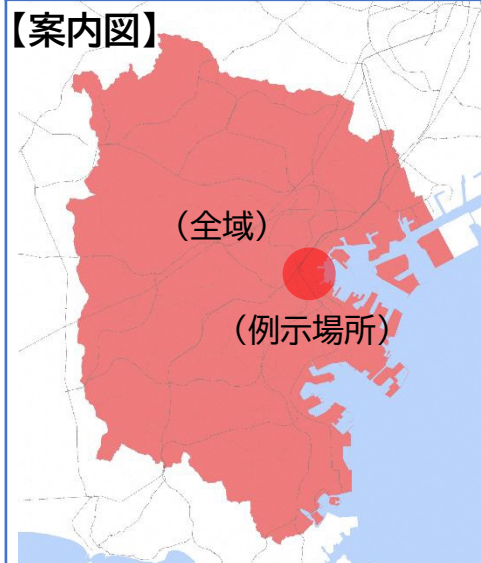
② 横浜港南本牧地区コンテナターミナル施設概要

①、②、目標③：国際競争力を高めるための基盤づくり、④、⑤、⑥、⑦

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼

			●H29.4 I-TOP立上げ	●R1.1 イノベーション都市・横浜	●R3.11	●R4.2 横浜南部市場実証フィールド						
			●H28.11 LIP横浜立上げ	R1.11 YOXO BOX	中小マッチング、横浜未来機構							
H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)



【主な取組】

【イノベーションの推進】

- 多様な人材が、組織を越えて新たなイノベーションを横浜から創出していく「**イノベーション都市・横浜**」を宣言(R1(2019)年1月)し、「**YOXO BOX**」(ベンチャー企業成長拠点)を設置(R1(2019)年10月)
- 中堅・中小企業とスタートアップの新たな価値創造に向けたマッチング事業へ参画(R3(2021)年11月)、**横浜未来機構**発足(R3(2021)年11月) など

成光精密株式会社
(大阪市)



精密部品加工技術



株式会社3D Printing Corporation
(横浜市)



3Dプリンティング技術

精密部品
加工の
高度化・
高速化



地域企業とのネットワークを駆使し両者連携の機会を創出



(再掲) 目標③の具体的な内容

① 京浜臨海部等の産業拠点

- 世界最高水準の研究開発機能の強化

② 港湾機能の強化

- 国際ハブポートの実現
- 羽田空港とのアクセス強化

③ イノベーションの推進

- 産業の創造と革新効率よく実現するハード、ソフトの事業環境の充実

○ その他

- グローバル企業の受皿となる開発促進や外国人の生活・就業環境などの整備
- 市域全体での文化芸術などにより都市の魅力向上 など



目標③に対するまとめ

① 京浜臨海部等の産業拠点

- **研究開発拠点の整備**等が進んだが、産業構造や交通インフラの変化を踏まえた**京浜臨海部や新横浜の更なる機能強化**が必要。

② 港湾機能の強化

- 高規格なコンテナターミナル整備等により**横浜港の国際競争力強化**を進めた。

③ イノベーションの推進

- **創業・ベンチャー企業の支援環境**づくりを進めたが、国際競争力の強化に向けた**更なるイノベーションの推進**が必要。

○ その他

- みなとみらい地区へ**グローバル企業の進出**などが進んだものの、**高度人材の居住・滞在環境の充実**までには至っていない。
- 都心部を中心に文化芸術の取組を進めたものの、市域全体では十分とは言えない

目標④：地域特性に応じた計画的・効率的な土地利用と地域づくり



(現行プラン)都市づくりの目標

①超高齢社会や将来の人口減少社会に対応できる「集約型都市構造」への転換と、人にやさしい「鉄道駅を中心としたコンパクトな市街地形成」

②地球温暖化やヒートアイランド現象の緩和に向けた、エネルギー効率のよい低炭素型の都市づくり

③首都圏全体の発展をけん引するとともに、国際競争力を高めるための基盤づくり

④地域特性に応じた、計画的・効率的な土地利用と地域まちづくり

⑤誰もが移動しやすく環境にやさしい交通の実現

⑥横浜らしい水・緑環境の実現と、都市の魅力を生かしたまちづくり

⑦震災や風水害などの自然災害に強い、安全安心のまちづくり

**目標④の具体的な内容****① 計画的な土地利用**

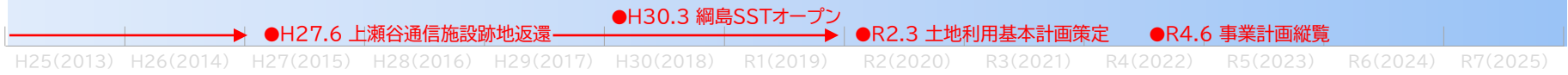
- 利便性が高く効率的な市街地形成に向けた土地利用を推進する。

② 個性を生かした地域まちづくり

- 横浜独自の多様な手法を活用し、地域の個性や特色を生かした地域まちづくりを推進する。
- 地域の発意によるエリアマネジメントを推進

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



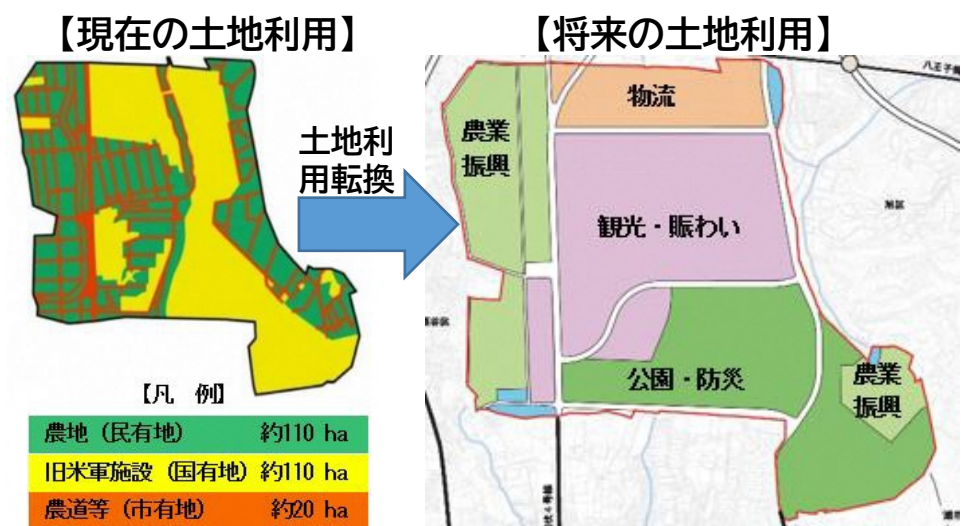
【主な取組】

【計画的な土地利用】

- 工場跡地にエネルギーマネジメントや効率化などの次世代都市型のスマートシティを志向した ① 網島SSTが整備(H30(2018)年3月)。地区内には、大学や企業等との連携拠点や米国アップル(Apple)等の技術開発拠点が設置
- ② 旧上瀬谷通信施設跡地の土地区画整理事業、
- ③ 根岸住宅地区の跡地活用の検討 など



① 網島SST(Apple等の技術開発施設)



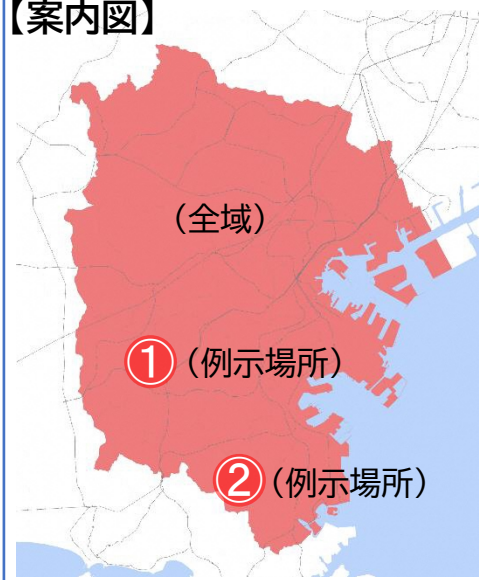
② 【旧上瀬谷通信施設跡地の区画整理事業の概要】

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



【案内図】



【主な取組】

【個性を生かした地域まちづくり(良質な住環境の整備・維持)】

- ① 高齢者の生活利便に配慮しつつ、良好な居住環境を維持し、緑豊かな街並みを形成する
- ② 開発から時間が経過した大規模団地等において多世代が健康な暮らしを持続できるまちづくり

ルールの実施地区
(R4(2022)年4月時点)

	制度名称	地区数
ルール・プラン	地区計画	125
	建築協定	171
	地域まちづくりルール	21
	地域まちづくりプラン	20



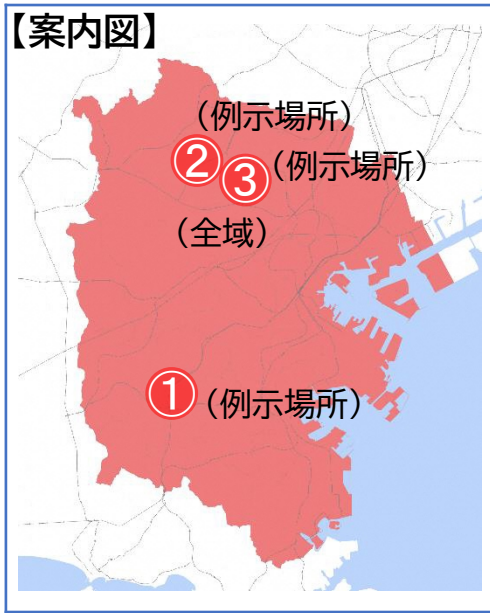
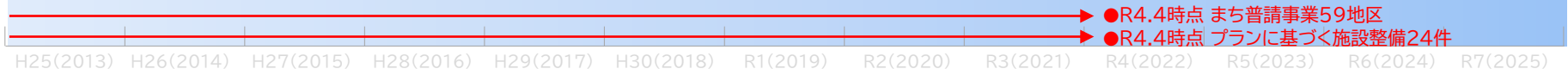
① 地区計画によるまちなみ景観の維持【泉領家地区】



② 野七里テラス(上郷ネオポリス)
出典)大和ハウス工業株式会社ホームページ

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



【主な取組】

**【個性を生かした地域まちづくり
(市民との協働による地域まちづくりの推進)】**

- 地域課題の解決や地域の魅力向上を実現するための施設整備に対する支援・助成の継続など

**事業の実施地区
(R4(2022)年4月時点)**

	制度名称	件数	
		H25-R4	件数(総数)
事業	ヨコハマ市民まち普請事業	27	59
	プランに基づく施設整備	12	24



【ヨコハマ市民まち普請事業の整備事例】

(再掲) 目標④の具体的な内容**① 計画的な土地利用**

- ・ 利便性が高く効率的な市街地形成に向けた土地利用を推進する。

② 個性を生かした地域まちづくり

- ・ 横浜独自の多様な手法を活用し、地域の個性や特色を生かした地域まちづくりを推進する。
- ・ 地域の発意によるエリアマネジメントを推進

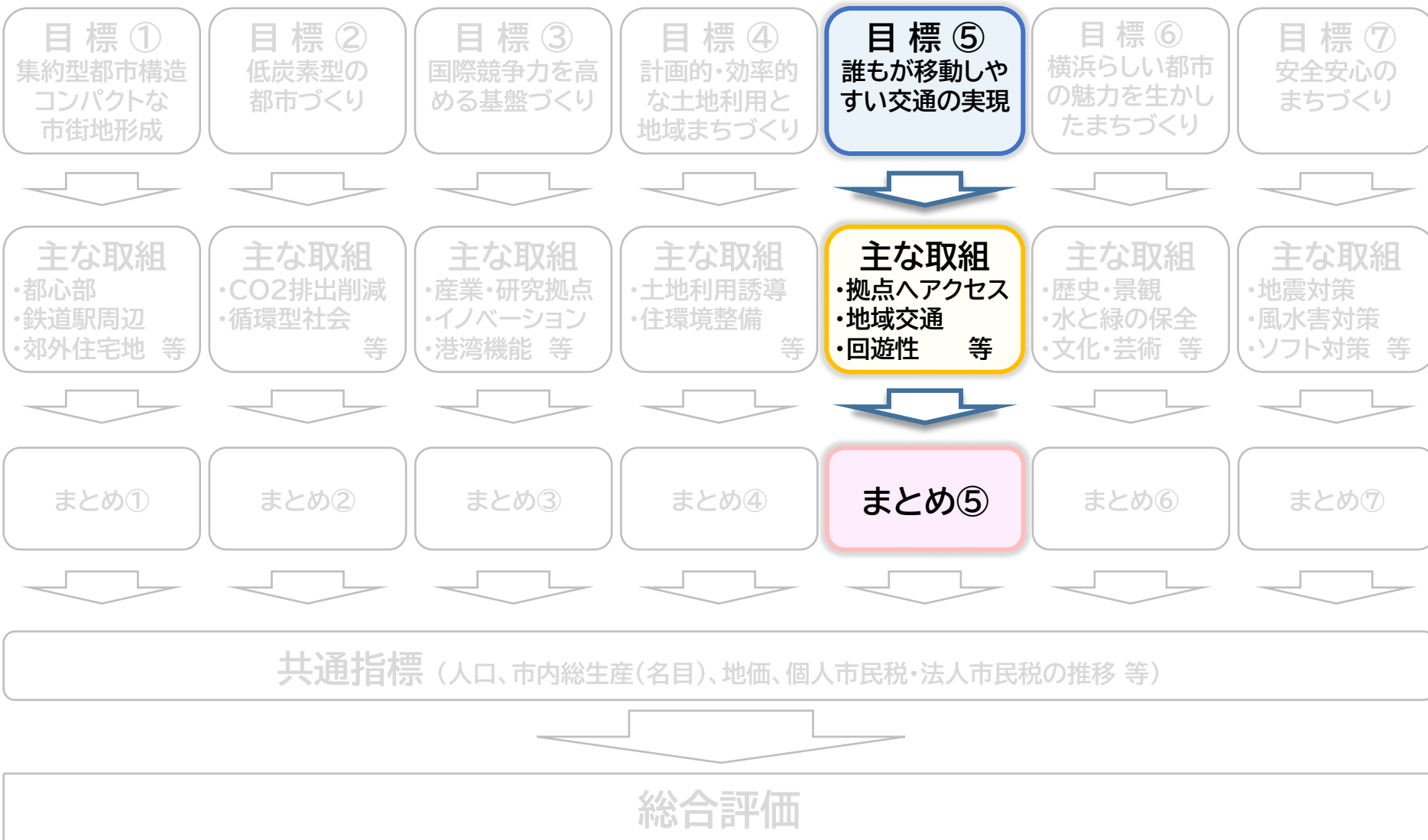
**目標④に対するまとめ****① 計画的な土地利用**

- 大規模な土地利用転換の機会を捉えた就業拠点等の整備、また旧上瀬谷通信施設における郊外部の活性化拠点の形成に向けた取組を進めた。
- 一方、市内の大規模土地や米軍施設跡地では、引き続き土地利用転換が見込まれ、計画的な土地利用誘導が求められる。

② 個性を生かした地域まちづくり

- 地域まちづくりルールやまち普請事業等を活用し、地域の特色を生かした取組や魅力の向上を図る取組を進めた。
- まちの再生や活性化が必要なエリアが数多く存在し、これからも取組を拡充していく対応が求められる。

目標⑤：誰もが移動しやすく 環境にやさしい交通の実現



(現行プラン)都市づくりの目標

①超高齢社会や将来の人口減少社会に対応できる「集約型都市構造」への転換と、人にやさしい「鉄道駅を中心としたコンパクトな市街地形成」

②地球温暖化やヒートアイランド現象の緩和に向けた、エネルギー効率のよい低炭素型の都市づくり

③首都圏全体の発展をけん引するとともに、国際競争力を高めるための基盤づくり

④地域特性に応じた、計画的・効率的な土地利用と地域まちづくり

⑤誰もが移動しやすく環境にやさしい交通の実現

⑥横浜らしい水・緑環境の実現と、都市の魅力を生かしたまちづくり

⑦震災や風水害などの自然災害に強い、安全安心のまちづくり

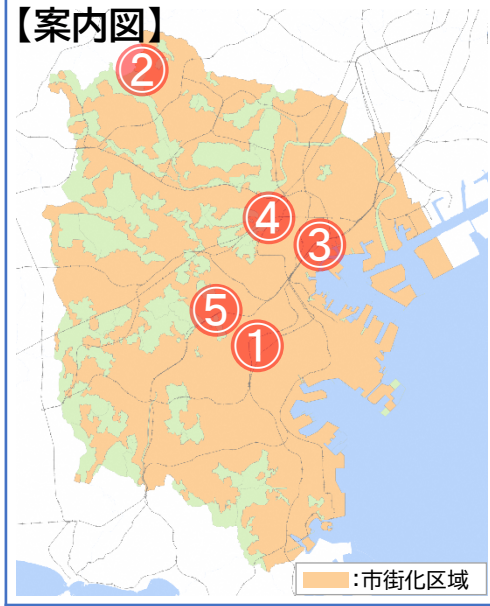
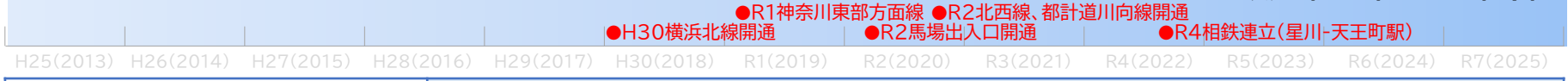


目標⑤の具体的な内容

- ① 拠点等へのアクセス・利便性向上
 - ・ **鉄道**: 既存路線の有効活用
 - ・ **高速道路**: ネットワークの形成
 - ・ **道路**: 連続立体交差事業・交差点改良等の住環境向上
- ② 地域交通
 - ・ **持続的なシステムの構築**を目指す。
- ③ 回遊性の向上・バリアフリー
 - ・ 都心部、臨海部の**回遊性**向上
 - ・ バリアフリー対策等の推進
- ④ 自転車対策
 - ・ **自転車通行空間の確保**や放置自転車対策に継続的に取り組む
- その他
 - ・ 都市基盤施設の機能維持・更新
 - ・ 公共交通の維持・活性化方策の推進

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



- 【主な取組】
- 【拠点等へのアクセス・利便性の向上】
- ① 神奈川東部方面線の相鉄・JR直通線の開通(R1(2019)年開通)
 - ② 高速鉄道3号線の延伸に関する事業化検討
 - ③ 横浜北線(H30(2017)年開通)、北線馬場出入口(R2(2020)年開通)
 - ④ 横浜北西線(R2(2020)年開通)、都市計画道路川向線(R2(2020)年開通)
 - ⑤ 相鉄本線連続立体交差事業の全線高架化(星川駅~天王町駅:R4(2022)年に開通) 等



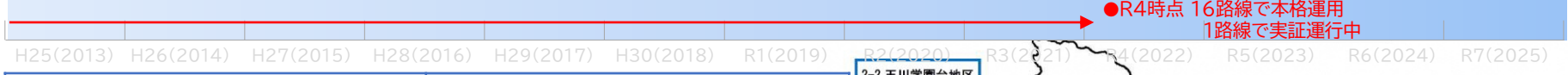
① 神奈川東部方面線の事業概要



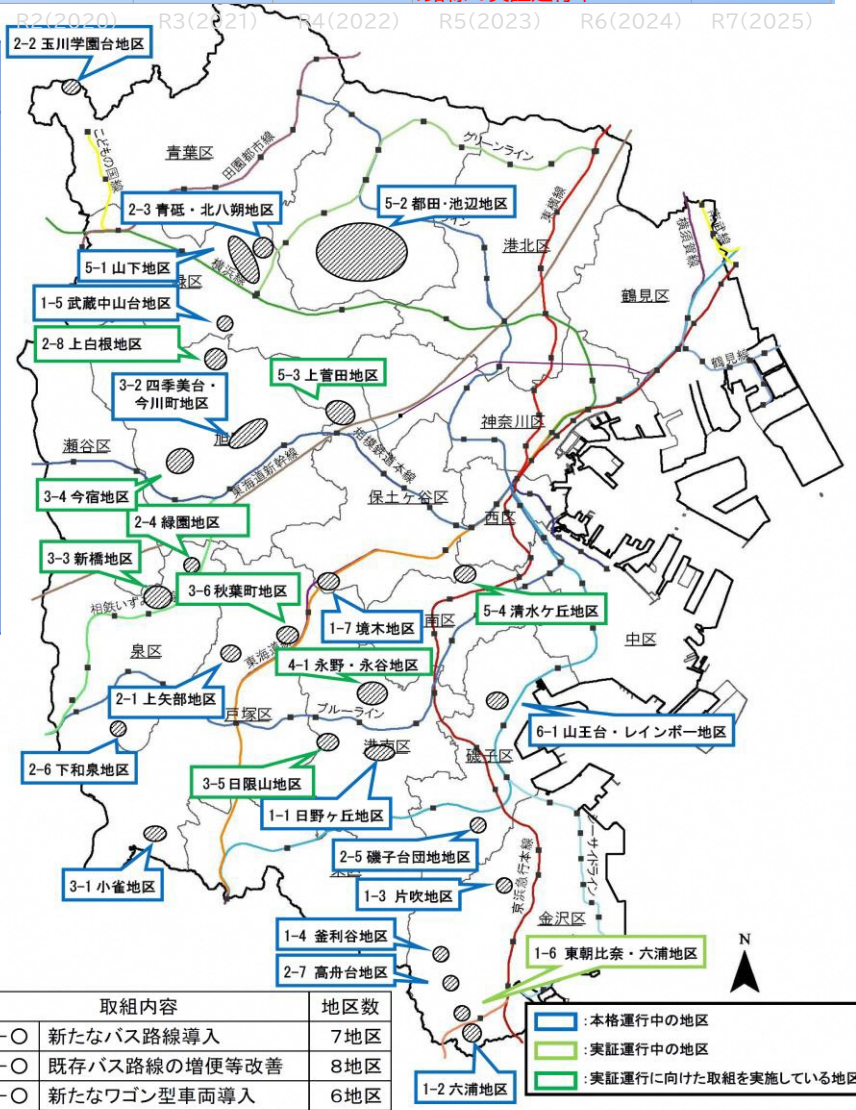
③ 横浜北西線の開通 (出典:首都高HP)

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



- 【主な取組】**
- 【地域交通】**
- 地域交通サポート事業の推進(R4(2022)年4月時点で16路線が本格運用、1路線で実証運行中)
 - 多様な主体との連携による地域交通の強化等



取組内容	地区数
1-0 新たなバス路線導入	7地区
2-0 既存バス路線の増便等改善	8地区
3-0 新たなワゴン型車両導入	6地区
4-0 新たな乗合タクシー導入	1地区
5-0 地域の共助による移手段	4地区
6-0 地域貢献送迎バス導入	1地区

 : 本格運行中の地区
 : 実証運行中の地区
 : 実証運行に向けた取組を実施している地区



本市補助制度を活用した車両の更新、車両ラッピングデザインの公募、お披露目会の開催

【戸塚区小雀地区】



【金沢区片吹地区】



【金沢区六浦地区】

【地域交通サポートで利用している車両(例)】

【地域交通サポート事業の実施状況(R4(2022).1時点)】

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼

H25(2013) H26(2014) H27(2015) H28(2016) H29(2017) H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023) R6(2024) R7(2025)

【案内図】



【主な取組】

【回遊性の向上】

- 都心臨海部の回遊性向上のため、エアキャビン、接続バス等による回遊環境の整備

【安全対策、バリアフリー】

- 通学路の路側帯のカラー化
- 危険度の高い交差点の安全対策
- 歩道の段差改善等のバリアフリーを推進



【日本初の常設都市型ロープウェイ】「YOKOHAMA AIR CABIN」

【接続バス】バイサイドブルー

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



【主な取組】

【自転車対策】

- ① 鶴見駅・② 戸塚駅周辺等を中心に自転車通行空間を整備
- 継続的な放置自転車対策

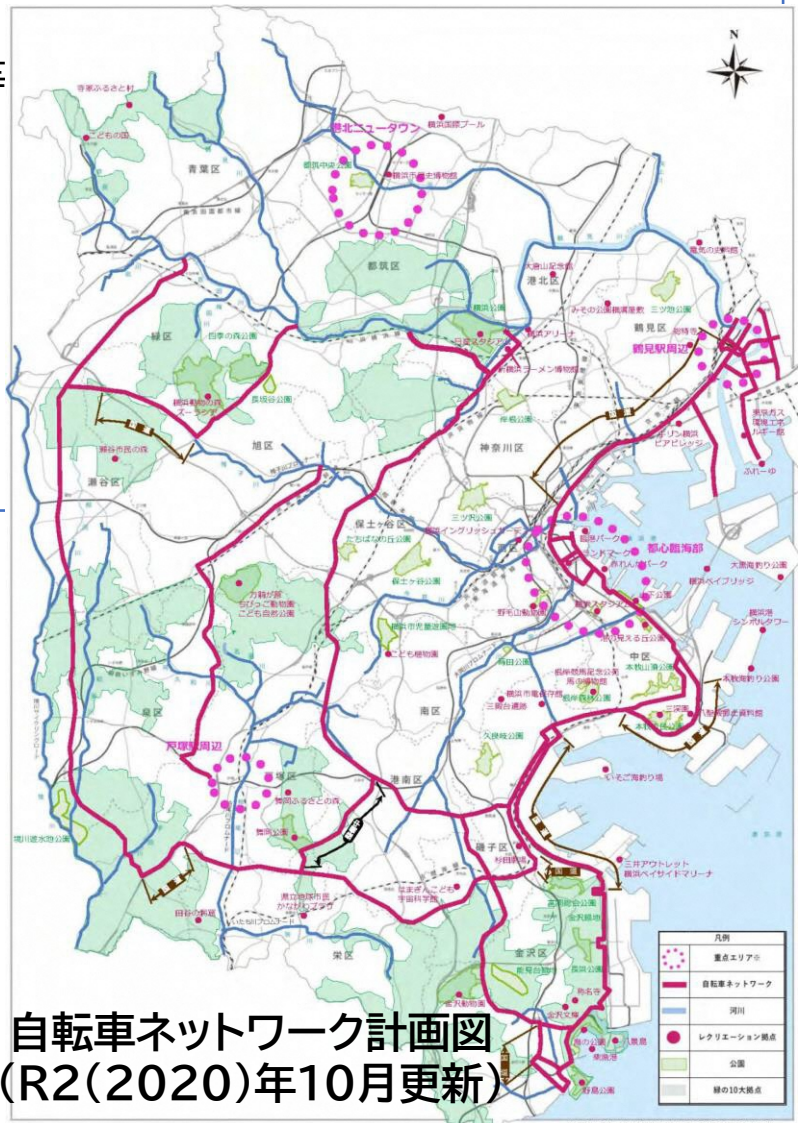
	H25(2013)	R3(2021)
放置自転車	14,282	4,251

(台)

約7割減



矢羽根型路面標示のイメージ
(① 鶴見駅前郵便局付近)



自転車ネットワーク計画図
(R2(2020)年10月更新)

(再掲) 目標⑤の具体的な内容

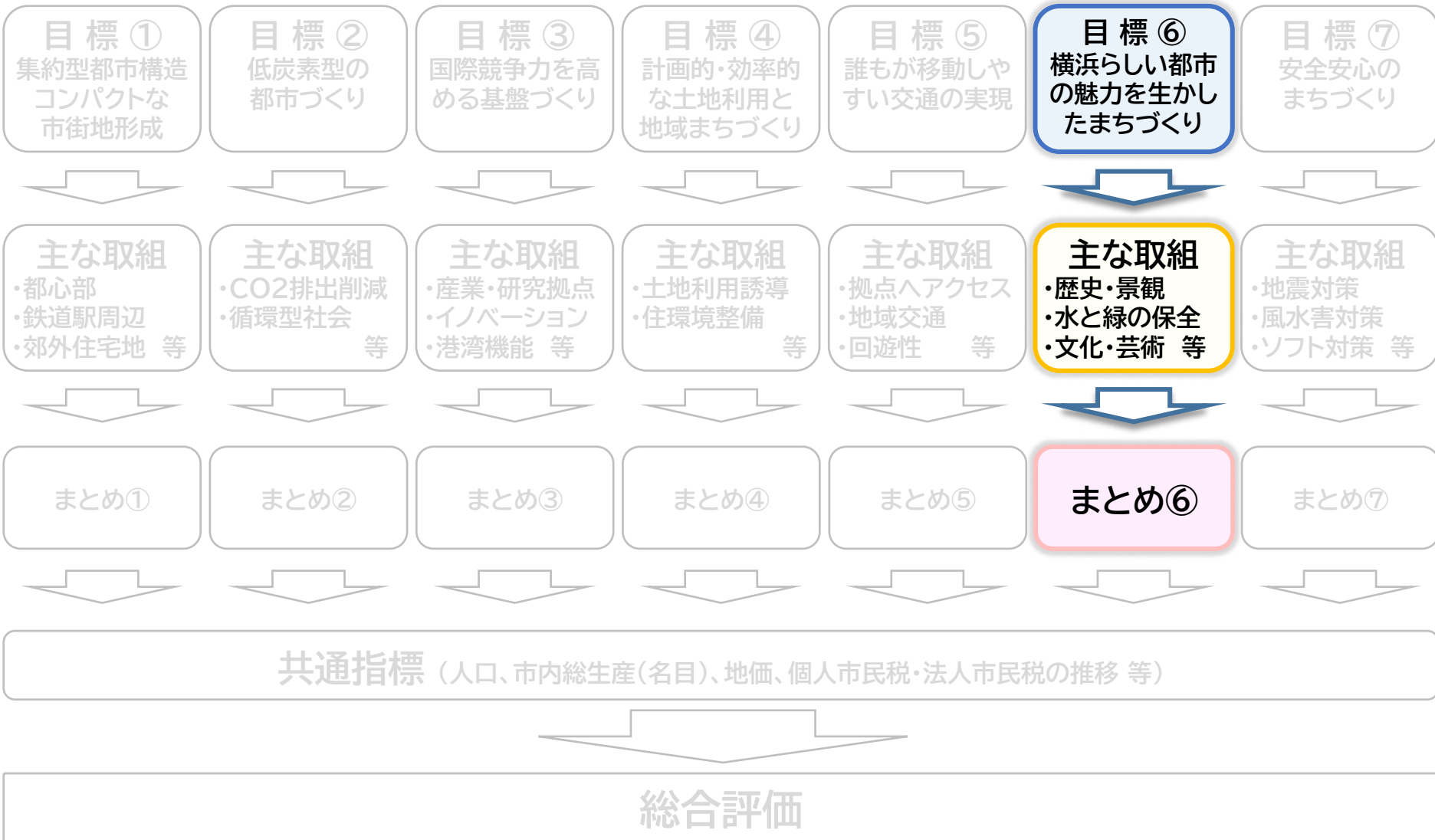
- ① 拠点等へのアクセス・利便性向上
 - ・ 道路:連続立体交差事業・交差点改良等の住環境向上
 - ・ 高速道路:ネットワークの形成
 - ・ 鉄道:既存路線の有効活用
- ② 地域交通
 - ・ 持続的なシステムの構築を目指す。
- ③ 回遊性の向上・バリアフリー
 - ・ 都心部、臨海部の回遊性向上
 - ・ バリアフリー対策等の推進
- ④ 自転車対策
 - ・ 自転車通行空間の確保や放置自転車対策に継続的に取り組む
- その他
 - ・ 都市基盤施設の機能維持・更新
 - ・ 公共交通の維持・活性化方策の推進



目標⑤に対するまとめ

- ① 拠点等へのアクセス・利便性向上
 - 神奈川東部方面線の整備や環状道路の整備等により広域交通ネットワークの構築を進めた。
 - 都市計画道路の整備率はR3(2021)年度末で69.4%に留まっている。
- ② 地域交通
- ③ 回遊性の向上・バリアフリー
 - 地域交通サポート事業やオンデマンドバスの実証実験等により、多様な移動手段の確保に取り組んだ。
 - 高齢化の進展等を見据えた多様な移動手段の確保やバリアフリー化の推進など、誰もが移動しやすい環境づくりが必要。
- ④ 自転車対策
 - 自転車通行空間の整備を進めた他、駐輪場収容台数の増加等により放置自転車台数が減少。(R3(2021)はH25(2013)比で約7割減)

目標⑥：横浜らしい水・緑環境の実現と、都市の魅力を生かしたまちづくり



(現行プラン)都市づくりの目標

- ①超高齢社会や将来の人口減少社会に対応できる「集約型都市構造」への転換と、人にやさしい「鉄道駅を中心としたコンパクトな市街地形成」
- ②地球温暖化やヒートアイランド現象の緩和に向けた、エネルギー効率のよい低炭素型の都市づくり
- ③首都圏全体の発展をけん引するとともに、国際競争力を高めるための基盤づくり
- ④地域特性に応じた、計画的・効率的な土地利用と地域まちづくり
- ⑤誰もが移動しやすく環境にやさしい交通の実現
- ⑥横浜らしい水・緑環境の実現と、都市の魅力を生かしたまちづくり**
- ⑦震災や風水害などの自然災害に強い、安全安心のまちづくり



目標⑥の具体的な内容

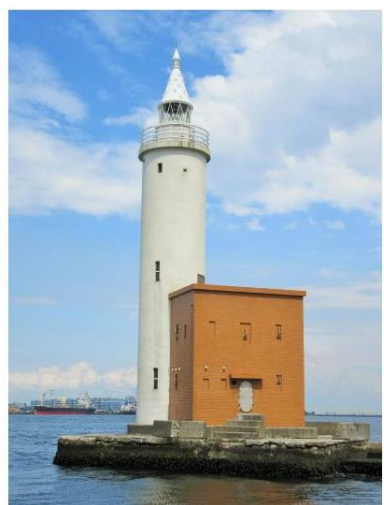
- ① 歴史・景観の保全
 - 歴史的建造物や都市デザインによる魅力あふれる都市空間の形成
- ② 緑と水の利活用、公園の公民連携活用
 - 身近な緑と水循環を体感できるまちづくり
 - 生物多様性の保全・再生・創造を図り、自然と共存したまちづくり
 - 農地の保全と活用
- ③ 文化・芸術・観光都市
 - 創造都市、交流拠点都市としての魅力向上
- その他
 - 多様性を感じさせる景観の形成
 - 国際的な都市の観光需要への対応
 - きれいな海づくりの実現 など

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



- 【主な取組】**
- 【歴史・景観】**
- 歴史的建造物の認定・保全
 - 景観計画の策定、景観推進地区および都市景観協議地区の指定による景観誘導
- 【緑と水の利活用】**
- 緑地保全制度等による樹林地の保全
 - 公園の新設整備・再整備に合わせた雨水の保水・浸透機能向上を図るとともにグリーンインフラの活用
 - 大岡川プロムナード他での並木再生やミスベリング横浜西口



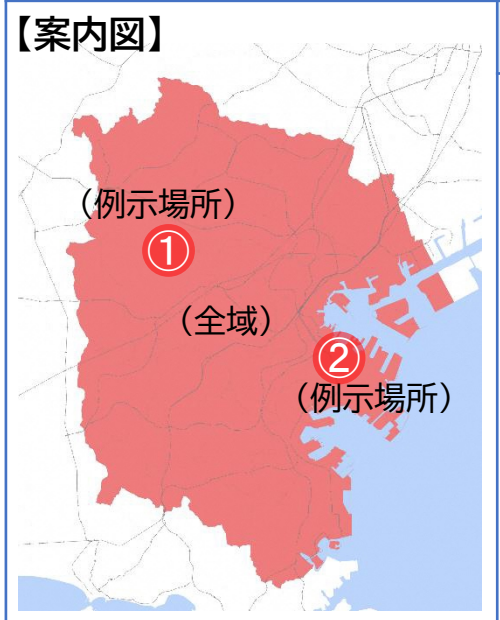
①【旧横浜外防波堤北灯台及び南灯台】
R1(2019)年度認定



②【源流の森保全地区(戸塚区舞岡町)】

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



【主な取組】

【公園の公民連携活用】

- Park-PFIを活用した ①「フォレストアドベンチャー・よこはま」等がオープン。
- ② 山下公園周辺地整備では公民連携による魅力と賑わいの創出に向けて事業者提案を公募

【農地保全】

- 農業専用地区(都市農園と都市環境の保全)の指定、農業振興策(ほ場整備事業や施設整備事業)の活用などにより農地を保全

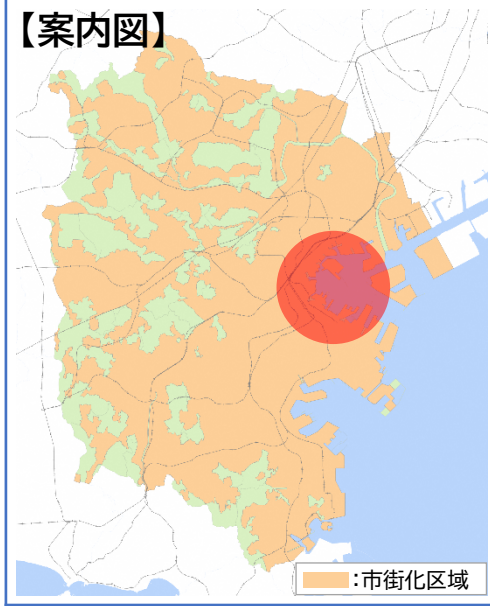


①【フォレストアドベンチャー・よこはま】



②【山下公園周辺地整備 イメージパース】

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年) 改定(R7(2025)年)▼



- 【主な取組】**
- 【文化・芸術・観光都市】**
- ・ アートを身近に感じる「ヨコハマトリエンナーレ」開催(H13(2001)年から、3年に一度程度に開催)
 - ・ 創造的イルミネーション「ヨルノヨ」 (R1(2019)年から開催)
 - ・ ソフト施策と「まちづくり」等のハード施策を一体的に取り組み、国内外から「選ばれる都市」として持続的に発展していくため「創造都市アクションプラン」を策定(H27(2015)年7月) など



ヨコハマトリエンナーレ2020



ヨルノヨ2021

(再掲) 目標⑥の具体的な内容

① 歴史・景観の保全

- 魅力的な緑地・景観を維持保全
- 歴史的建造物や都市デザインによる魅力あふれる都市空間の形成

② 緑と水の利活用、公園の公民連携活用

- 身近な緑と水循環を体感できるまちづくり
- 生物多様性の保全・再生・創造を図り、自然と共存したまちづくり
- 農地の保全と活用

③ 文化・芸術・観光都市

- 創造都市、交流拠点都市としての魅力向上

○ その他

- 多様性を感じさせる景観の形成
- 国際的な都市の観光需要への対応
- きれいな海づくりの実現 など



目標⑥に対するまとめ

① 歴史・景観の保全

② 緑と水の利活用、公園の公民連携活用

- 樹林地の保全や公園整備、Park PFI等により、**緑地の保全・活用の取組**を進め、課税費目山林面積の減少は緩やかになっている。
- 一方、農地は年々減少している。
(H27(2015)からR2(2020)で約140ha減少)

③ 文化・芸術・観光都市

- 都心部を中心に、歴史的建造物の認定・保全や景観制度の活用、アーティストやクリエイター等と連携した創造都市の取組などにより**都市の魅力づくり**を進めたが、市域全体では十分とは言えない

○ その他

- 昨今の急激な気候変動を踏まえた**更なる水・緑環境の創出**や**生物多様性の保存**等に取り組む必要がある。

目標⑦：震災や風水害などの自然災害に強い、安全安心のまちづくり



(現行プラン)都市づくりの目標

①超高齢社会や将来の人口減少社会に対応できる「集約型都市構造」への転換と、人にやさしい「鉄道駅を中心としたコンパクトな市街地形成」

②地球温暖化やヒートアイランド現象の緩和に向けた、エネルギー効率のよい低炭素型の都市づくり

③首都圏全体の発展をけん引するとともに、国際競争力を高めるための基盤づくり

④地域特性に応じた、計画的・効率的な土地利用と地域まちづくり

⑤誰もが移動しやすく環境にやさしい交通の実現

⑥横浜らしい水・緑環境の実現と、都市の魅力を生かしたまちづくり

⑦震災や風水害などの自然災害に強い、安全安心のまちづくり



目標⑦の具体的な内容

① 地震対策

- 施設及びライフラインの計画的な改修・更新
- 市街地の不燃化を促進
- 建築物の建替え
- 狭あい道路の拡幅整備
- がけ地や造成地等の防災対策
- 防災拠点の整備や災害時に活用可能なオープンスペースの確保

② 風水害対策

- 河川・護岸整備・改修
- 下水道施設等の整備・改修
- 津波対策や工業施設等の耐震性の強化・不燃化 など

③ ソフト対策

- 自助・共助意識の醸成 など

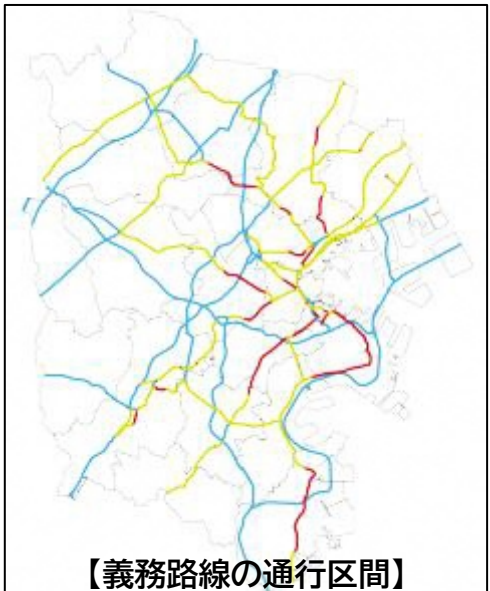
▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼

H25(2013) H26(2014) H27(2015) H28(2016) H29(2017) H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023) R6(2024) R7(2025)



- 【主な取組】**
- 【地震対策】**
- ・ 施設や建築物の耐震化
 - ・ 大規模地震に備えた津波、液状化、大規模造成地の地盤対策、エネルギー対策の強化
 - ・ 都市計画道路の整備や橋梁等の耐震化
 - ・ 無柱電化推進計画
 - ・ 建築物の不燃化、耐火性能強化
 - ・ がけ地の改善
 - ・ 緊急輸送路ネットワークの強化
- など



【耐震化の実績】
耐震化されていない住宅等の耐震化の進捗状況

耐震性無し	H27(2015)	R2(2020)	差分
①住宅	約18万戸	約11万戸	▲約7万戸
②多数の者が利用する特定建築物(市が保有する建築物)	約520棟	5棟	▲515棟

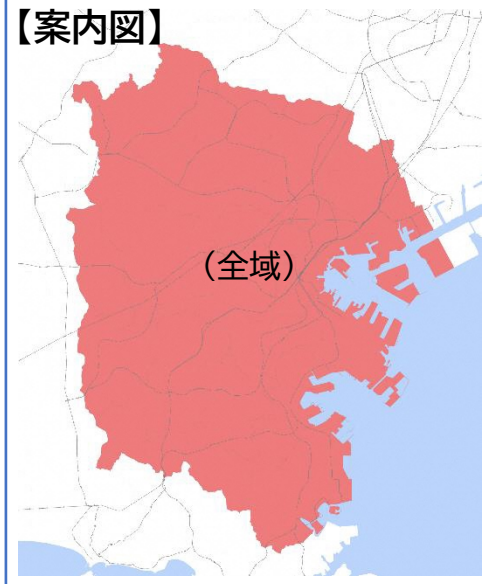
青:耐震性が確保されており、全幅通行可能路線
 黄:対象建築物が倒壊しても、1車線通行可能路線
 赤:対象建築物の倒壊により、通行不可能路線

【第2期、3期横浜市耐震改修促進計画】より作成

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼

H25(2013) H26(2014) H27(2015) H28(2016) H29(2017) H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023) R6(2024) R7(2025)



- 【主な取組】**
- 【風水害対策】**
- 河川の護岸整備、雨水幹線、遊水地、貯留施設の整備
 - 既設の雨水調整池の改良や橋梁の架け替え
 - 下水道施設等の整備
 - 洪水ハザードマップの作成と住民への周知や防災情報メールによる危険情報の提供 など



整備前



整備後

【河道の拡幅】(阿久和川)



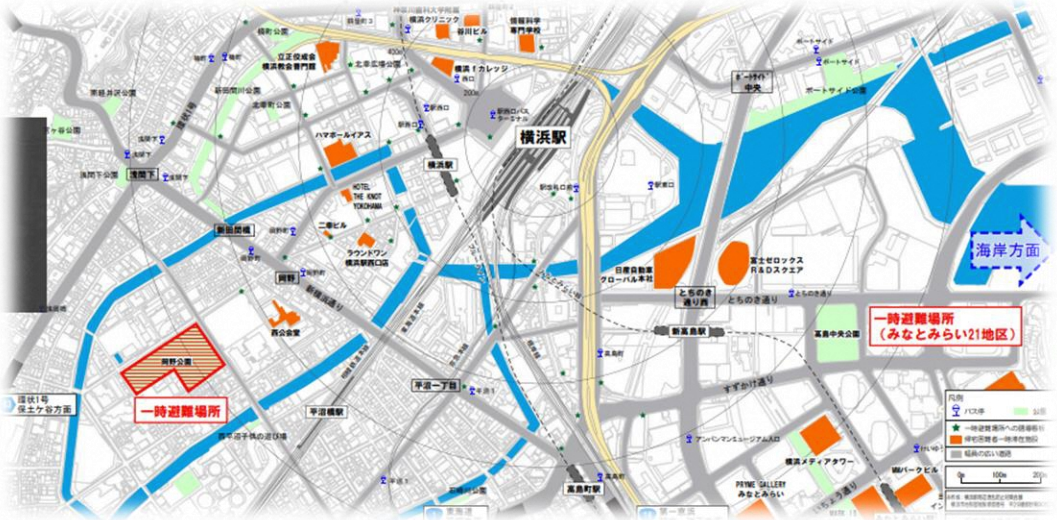
【河川遊水地の整備】(舞岡川遊水地)

▼現行都市マスの策定(H25(2013)年)

改定(R7(2025)年)▼



- 【主な取組】**
- 【ソフト対策】**
- 都心部 滞留者、帰宅困難者避難マップ (H30(2018)年3月作成)
 - 大雨時等の防災情報等の提供
 - 自助・共助の推進、災害対応の充実に資する防災・減災推進研修の実施
 - 防災の担い手の育成、防災まちづくりを行う団体への支援 など



【都心部 滞留者・帰宅困難者避難マップ】

【地域の自治会が開催する行事】

(再掲) 目標⑦の具体的な内容

① 地震対策

- ・ 施設及びライフラインの計画的な改修・更新
- ・ 市街地の不燃化を促進
- ・ 建築物の建替え
- ・ 狭あい道路の拡幅整備
- ・ がけ地や造成地等の防災対策
- ・ 防災拠点の整備や災害時に活用可能なオープンスペースの確保

② 風水害対策

- ・ 河川・護岸整備・改修
- ・ 下水道施設等の整備・改修
- ・ 津波対策や工業施設等の耐震性の強化・不燃化 など

③ ソフト対策

- ・ 自助・共助意識の醸成 など

**目標⑦に対するまとめ**

① 地震対策

② 風水害対策

- 建築物の耐震化や不燃化、河川の護岸施設や遊水地、下水道施設の整備・改良等により、**自然災害に強い都市づくり**を進めた。
- 一方、**頻発・激甚化する自然災害等への備え**について、まちづくりと連携しながら更に取り組んでいく必要がある。(全市における狭あい道路の割合は12.4%、第1次緊急輸送路の無電柱化が約33%であり対策が必要。)

③ ソフト対策

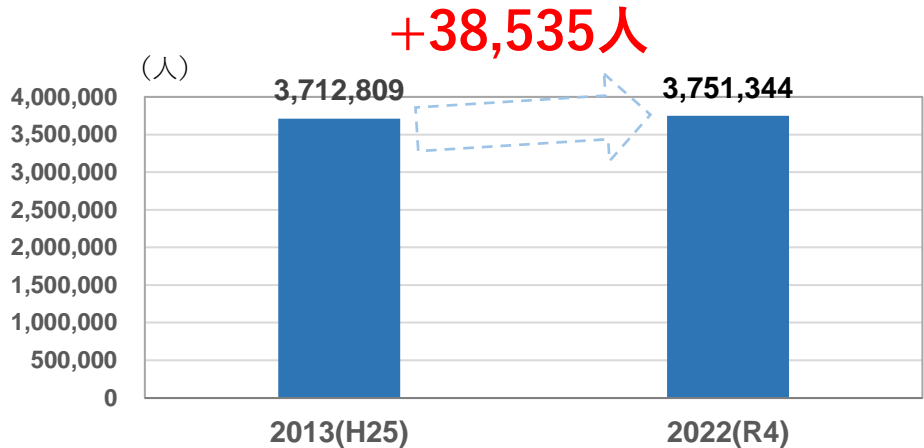
- 帰宅困難者避難マップの作成や地域の自助・共助の取組推進などのソフト施策により、**安全・安心なまちづくり**を進めた。



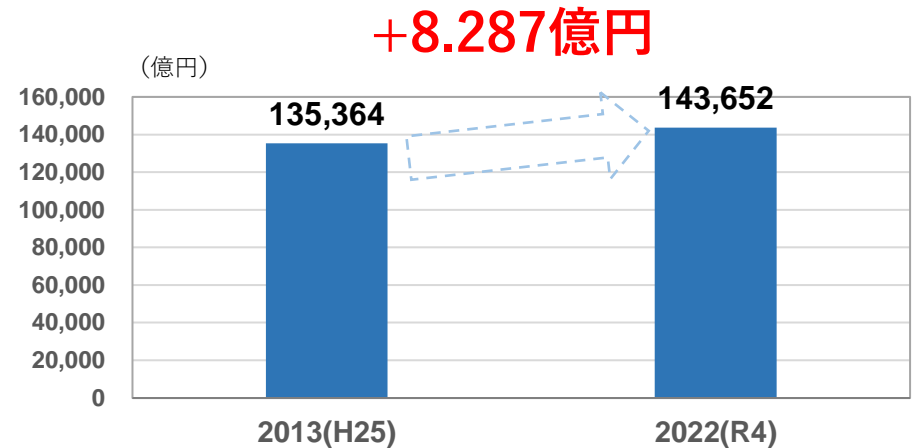
共通指標（人口、市内総生産（名目）、地価、個人市民税・法人市民税の推移 等）

総合評価

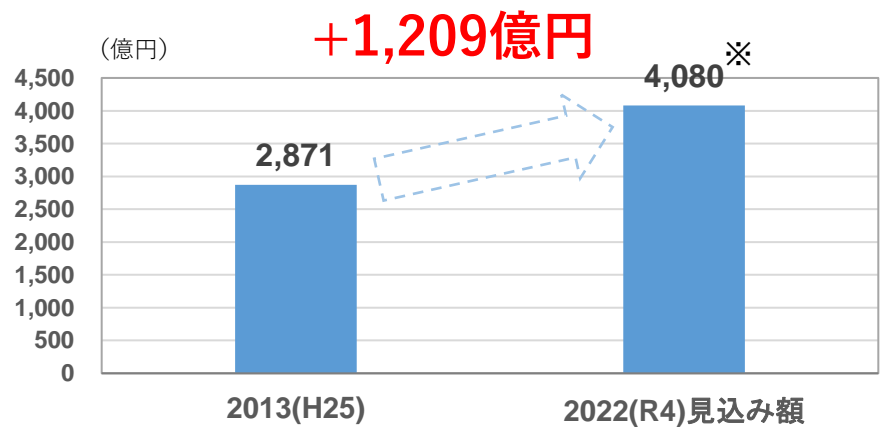
人口の推移



市内総生産(名目)の推移

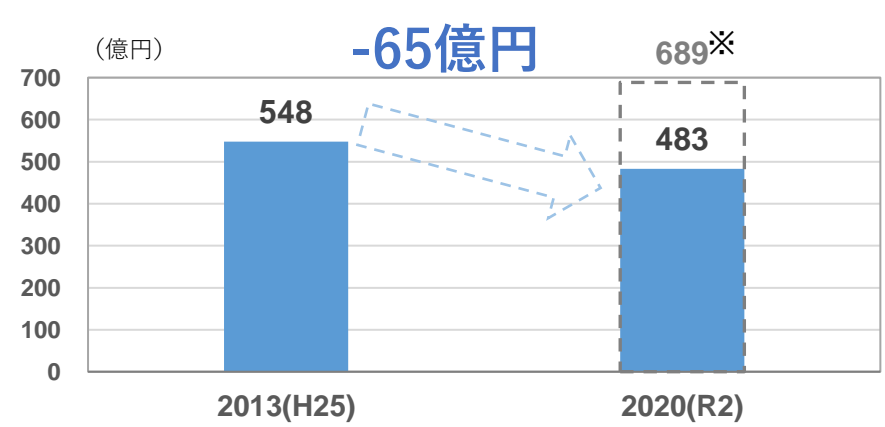


個人市民税の推移



※ H30年に県費負担教員の本市移管に伴う税源移譲

法人市民税の推移

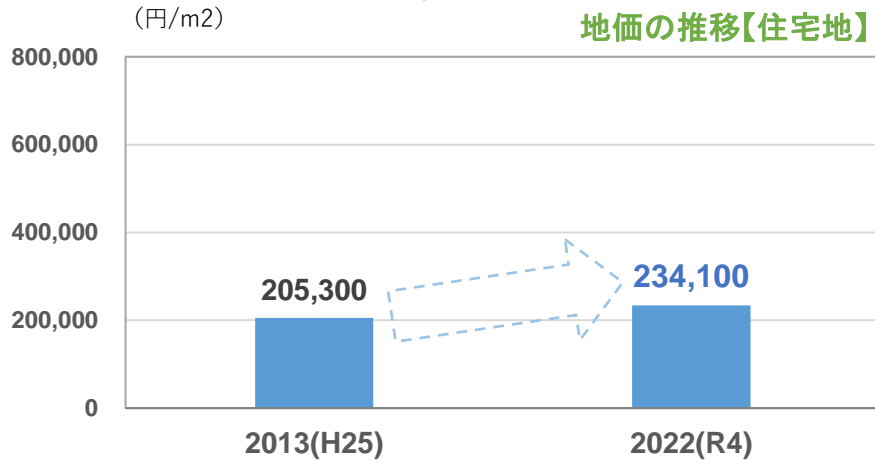


※参考値税制改革影響額を除いた額(令和2年度)

地価の推移

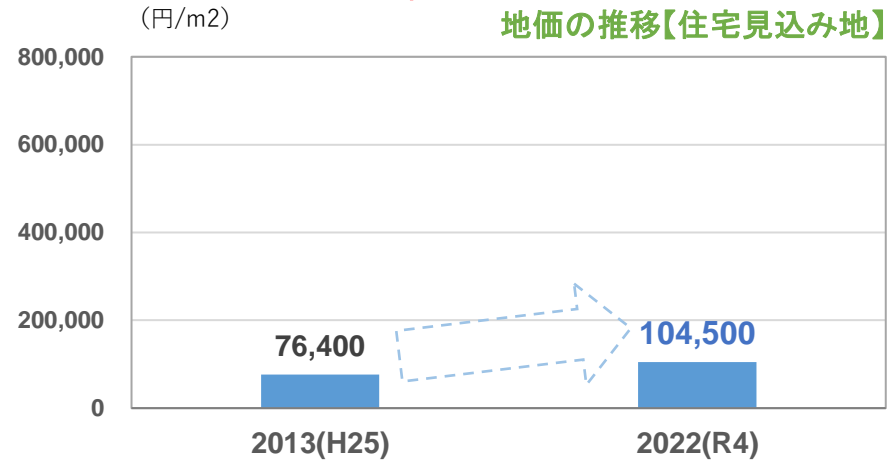
+28,800円/m²

地価の推移【住宅地】



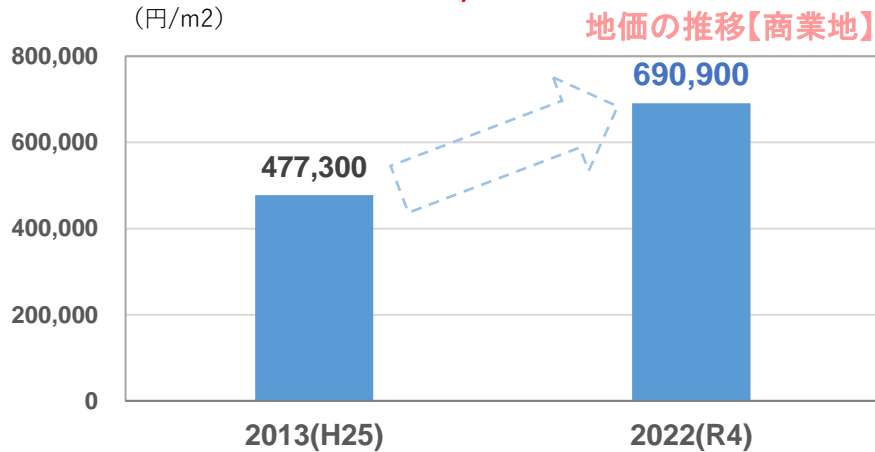
+28,100円/m²

地価の推移【住宅見込み地】



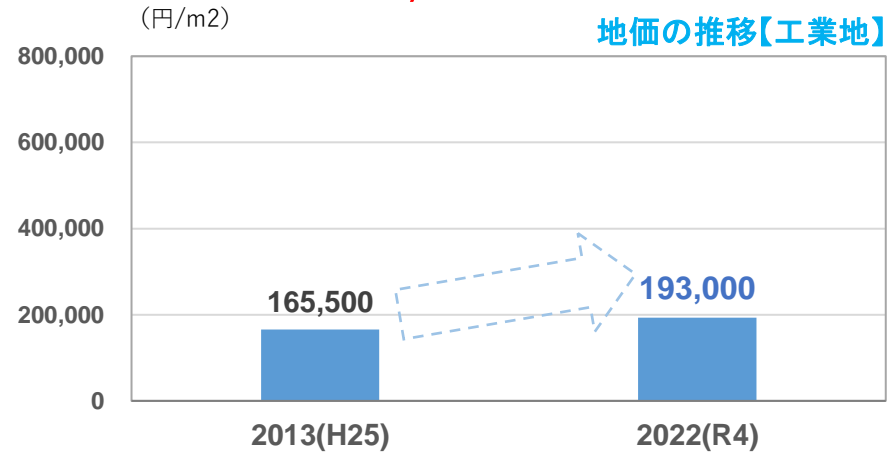
+213,600円/m²

地価の推移【商業地】

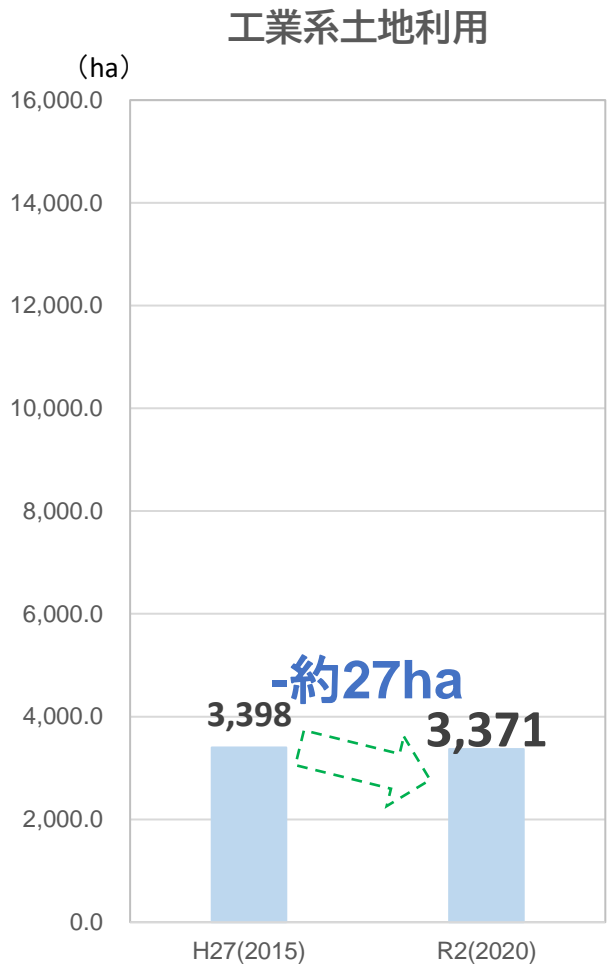
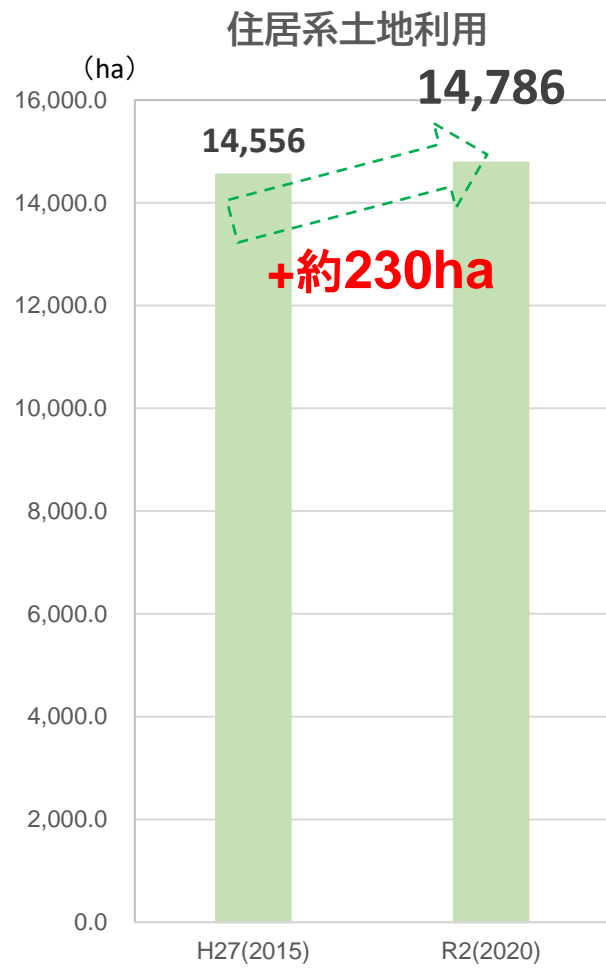


+27,500円/m²

地価の推移【工業地】



土地利用の推移



出典)都市計画基礎調査より作成



共通指標 (人口、市内総生産(名目)、地価、個人市民税・法人市民税の推移 等)

総合評価

主な成果

民間投資や地域の機運を捉えた
基盤整備と機能集約

道路や鉄道の整備による
広域交通ネットワークの構築

樹林地の保全等による
水・緑環境の充実

歴史景観保全や創造都市による
都市の魅力づくり

ハードとソフトの両面からの
災害対策

更なる課題

人口減少・高齢化への備え

- ・事業推進による都市活力増進
- ・移動環境の充実 など

産業構造の転換への対応

- ・産業拠点の機能強化
- ・イノベーションの推進 など

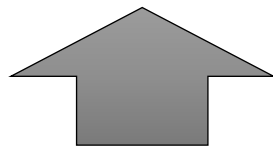
急激な気候変動の抑止と適応

- ・脱炭素の実現
- ・激甚化する自然災害対策 など

1. 都市計画マスタープラン等とは
2. 横浜市の概況と歴史
3. 現行プランの振り返り
4. **改定の基本的な考え方**
5. 次回以降の進め方

改定の基本的な考え方

①おおむね20年後に、
どのような都市の姿を目指すのか



②その都市の姿を実現するために、
どのような都市計画マスタープラン
であるべきか

4. 改定の基本的な考え方（都市マス）

① おおむね20年後に、どのような都市の姿を目指すのか

これまでの都市づくりの更なる課題

人口減少・高齢化への備え

産業構造の転換への対応

急激な気候変動の抑止と適応

新たな時代への変化の兆し

コロナ禍を契機とした急速な・・・

働き方・暮らし方の変化

社会構造の変化やグローバル化の進展に伴う・・・

価値観の多様化

IoTやAI、ビッグデータをはじめとする・・・

科学技術の革新

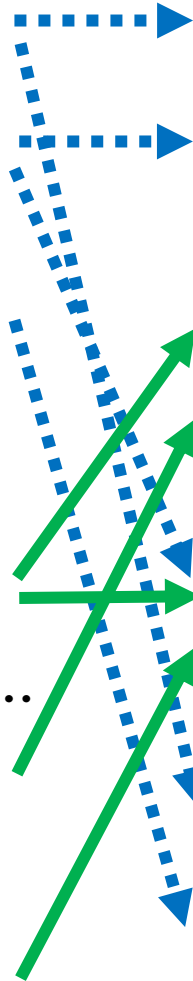
「これからの都市の姿」に向けた視点

都市資源のポテンシャル発揮

Well Beingの実現

新たな価値の創造

持続可能な都市



① おおむね20年後に、どのような都市の姿を目指すのか

▼ 都市資源のポテンシャル発揮

- 歴史の中で培われてきた都市の資源のポテンシャルを、市民や企業等が引き出し、快適に活用している都市

▼ Well Beingの実現

- 横浜に暮らす人、ビジネスや観光で訪れる人すべての人たちが幸せを感じられる世界一Well Beingな都市

▼ 新たな価値の創造

- 国内外から多くの企業等を惹きつけ、多様な主体が新たな価値を生み出すことができる都市

▼ 持続可能な都市

- 人口減少下にあっても、活発な市民活動・経済活動により、持続可能な都市経営が実現できている都市

4. 改定の基本的な考え方（都市マス）

②どのような都市計画マスタープランであるべきか

都市の姿 ▼都市資源のポテンシャル発揮 ▼Well Beingの実現 ▼新たな価値の創造

これらを実現するには、市民や企業等が横浜を愛し、都市づくりに関わることが不可欠。そのため、横浜の**強みや魅力が分かりやすく**示され、市民や企業等が**横浜に愛着・誇りを持ってもらえる**ようなマスタープランとする。

都市計画マスタープラン

- ・都市づくりを通じて、**横浜市の強みを更に伸ばしていけるような**内容を記載する。
- ・現在の横浜をかたち作っている、**まちづくりの歴史**を記載する。
- ・「暮らし」や「賑わい」など、市民になじみのある**テーマ別の方針**とすると共に、市民が**全体像を把握できる分量**とする。

【参考：現行プラン】

- ← 課題解決型の記載。
- ← 歴史の記載なし。
- ← 国の指針に基づき、[土地利用][都市交通]等、都市全体を俯瞰した方針。また全153ページあり、ボリュームが多い。

都市の姿 ▼持続可能な都市

人口減少社会における、持続可能な都市の姿を示す。

都市計画マスタープラン

- ・**都市のサステナブルな成長**に向けた視点を記載し、個別の都市計画やまちづくりに生かしていく。

【参考：現行プラン】

- ← 市街地の縮退も視野に入れた、集約型都市構造への転換

4. 改定の基本的な考え方（都市マス）

都市計画マスタープラン改定の全体像

- ・都市づくりの歴史
- ・都市の変化の兆し(暮らし、経済、交流・賑わい、自然共生、災害対策)

目指すべき横浜の都市像

都市づくりの基本理念

将来の都市構造

都市づくりのテーマと方針



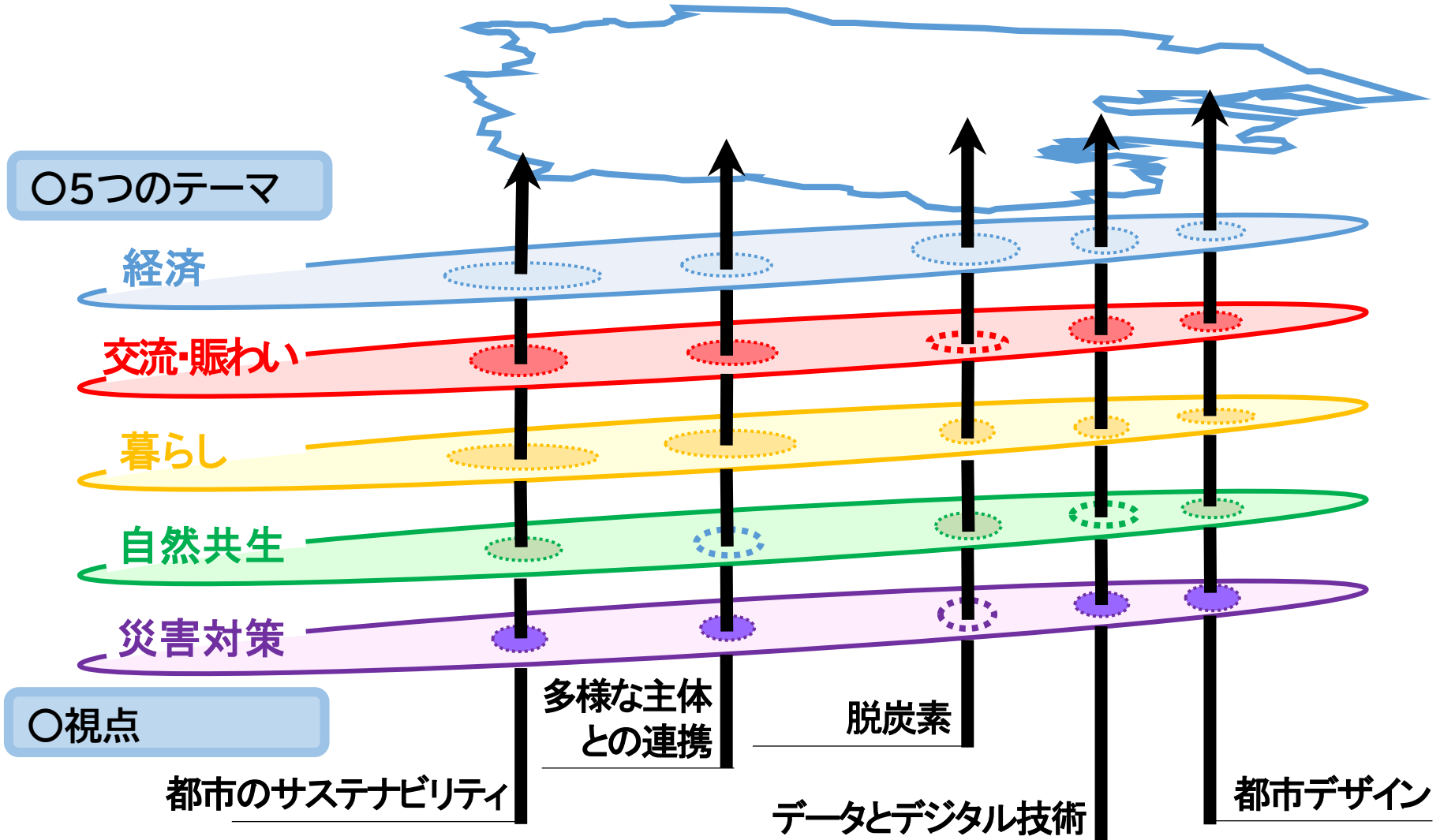
都市像の実現に向けた視点

- ・都市のサステナビリティ
- ・多様な主体との連携
- ・データとデジタル技術
- ・脱炭素
- ・都市デザイン

4. 改定の基本的な考え方（都市マス）

改定にあたっての基本姿勢

都市づくりの歴史と都市の変化の兆しを踏まえ目指すべき横浜の都市像を描き、5つのテーマと視点を持って、横浜らしさを磨く



4. 改定の基本的な考え方（都市マス）

都市計画マスタープラン改定の全体像

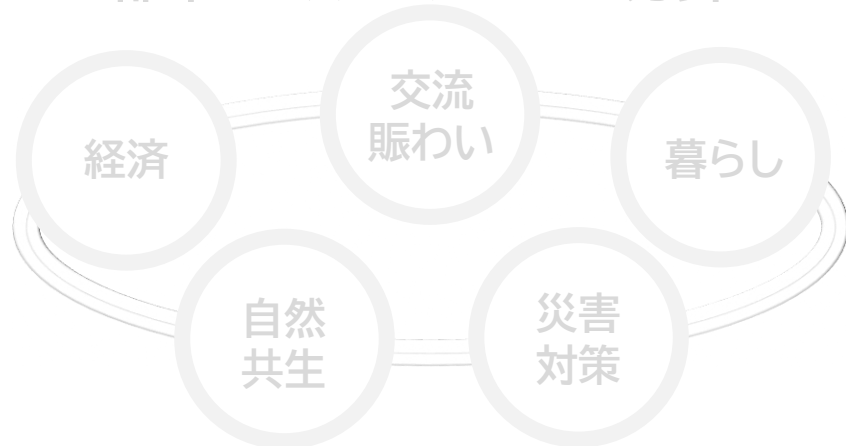
- ・都市づくりの歴史
- ・都市の変化の兆し(暮らし、経済、交流・賑わい、自然共生、災害対策)

目指すべき横浜の都市像

都市づくりの基本理念

将来の都市構造

都市づくりのテーマと方針



都市像の実現に向けた視点

- ・都市のサステナビリティ
- ・多様な主体との連携
- ・データとデジタル技術
- ・脱炭素
- ・都市デザイン

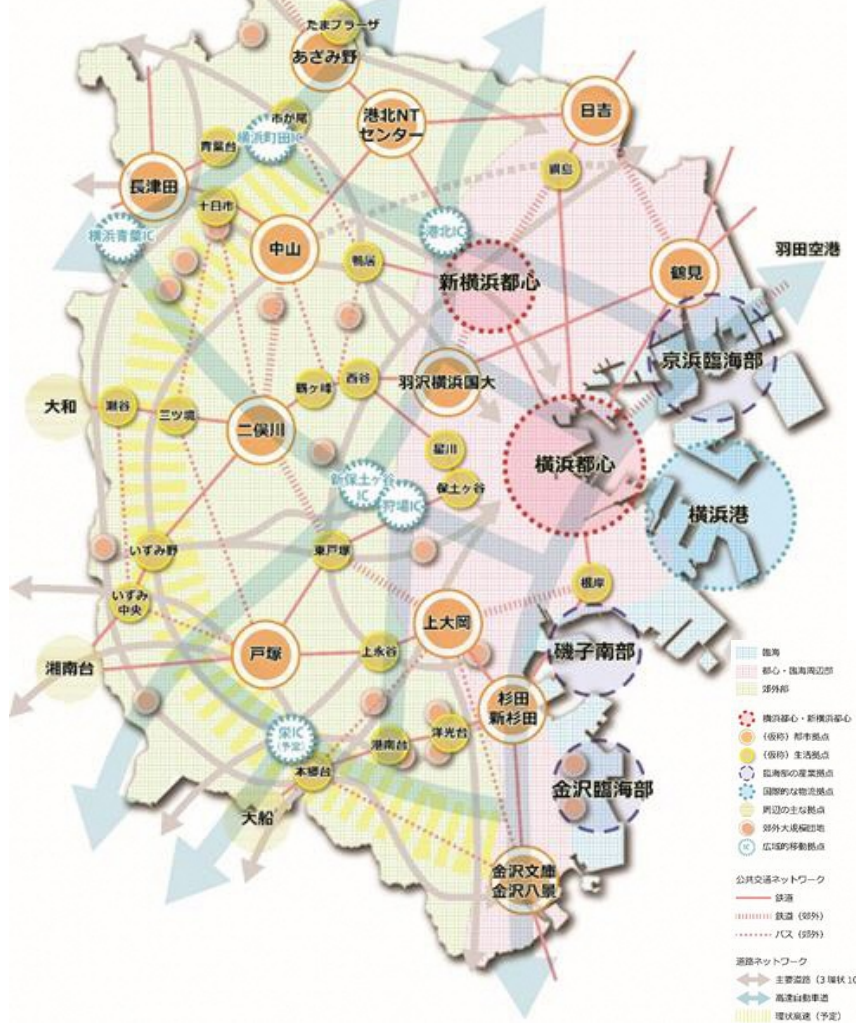
■目標年次…令和22（2040）年

・今後、都市計画審議会のご意見も踏まえて決定。
 ・現プランは「新しい横浜らしさの創造と持続を支える都市づくり」。

【基本理念】

（仮）〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇都市づくり

【都市構造（案）】



【郊外部の市街地像（案）】



- 【凡例】
- (仮称) 都市拠点
 - (仮称) 生活拠点
 - (仮称) 郊外住宅市街地
 - (仮称) 郊外鉄道駅沿線複合市街地
 - (仮称) 郊外大規模団地
 - バス路線（幹線）、バス停
 - バス路線（枝線）、バス停
 - 交通結節点

4. 改定の基本的な考え方（都市マス）

都市計画マスタープラン改定の全体像

- ・都市づくりの歴史
- ・都市の変化の兆し(暮らし、経済、交流・賑わい、自然共生、災害対策)

目指すべき横浜の都市像

都市づくりの基本理念

将来の都市構造

都市づくりのテーマと方針



都市像の実現に向けた視点

- ・都市のサステナビリティ
- ・多様な主体との連携
- ・データとデジタル技術
- ・脱炭素
- ・都市デザイン

暮らし

多様化する市民ニーズを捉えた、誰もが住みやすい都市づくり

テーマ1 多様化する市民ニーズを捉えた誰もが住みやすい都市づくり

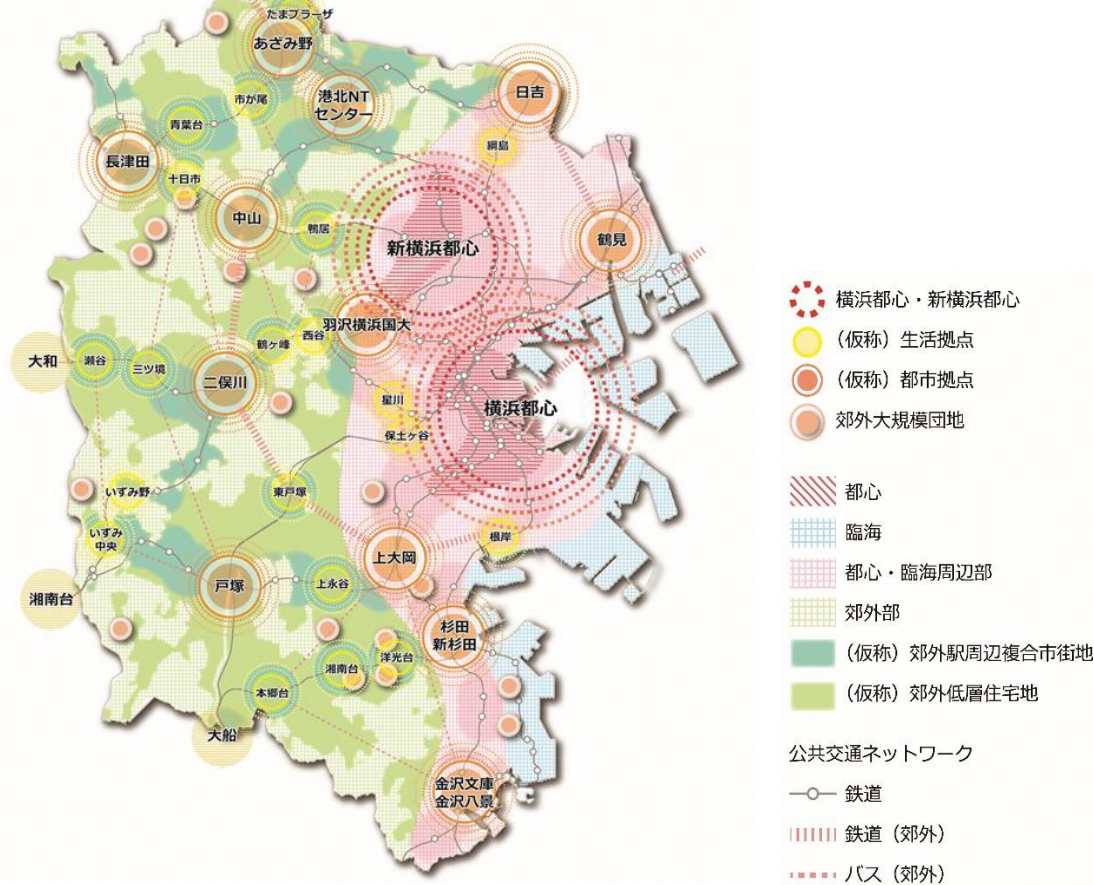
- 多様化する市民ニーズに対応するため、地域特性を踏まえた暮らし方・働き方の変化に対応した環境を整備することで、誰もが住みやすい都市づくりを目指す

<テーマの方針(案)>

1. 地域特性を踏まえた暮らし方・働き方の変化に対応した環境整備
2. まちレベルでの多世代居住
3. 多様性(ダイバーシティ)の実現への貢献
4. 移動の支援
5. 地域における既存ストックを活用した活動拠点等の形成と運営

など

<テーマに基づく方針図(案)>



4. 改定の基本的な考え方（都市マス／テーマと方針：次回以降に議論）

経済

ビジネス・産業の活性化を支える国際競争力を高める都市づくり

テーマ2 ビジネス・産業の活性化を支える国際競争力を高める都市づくり

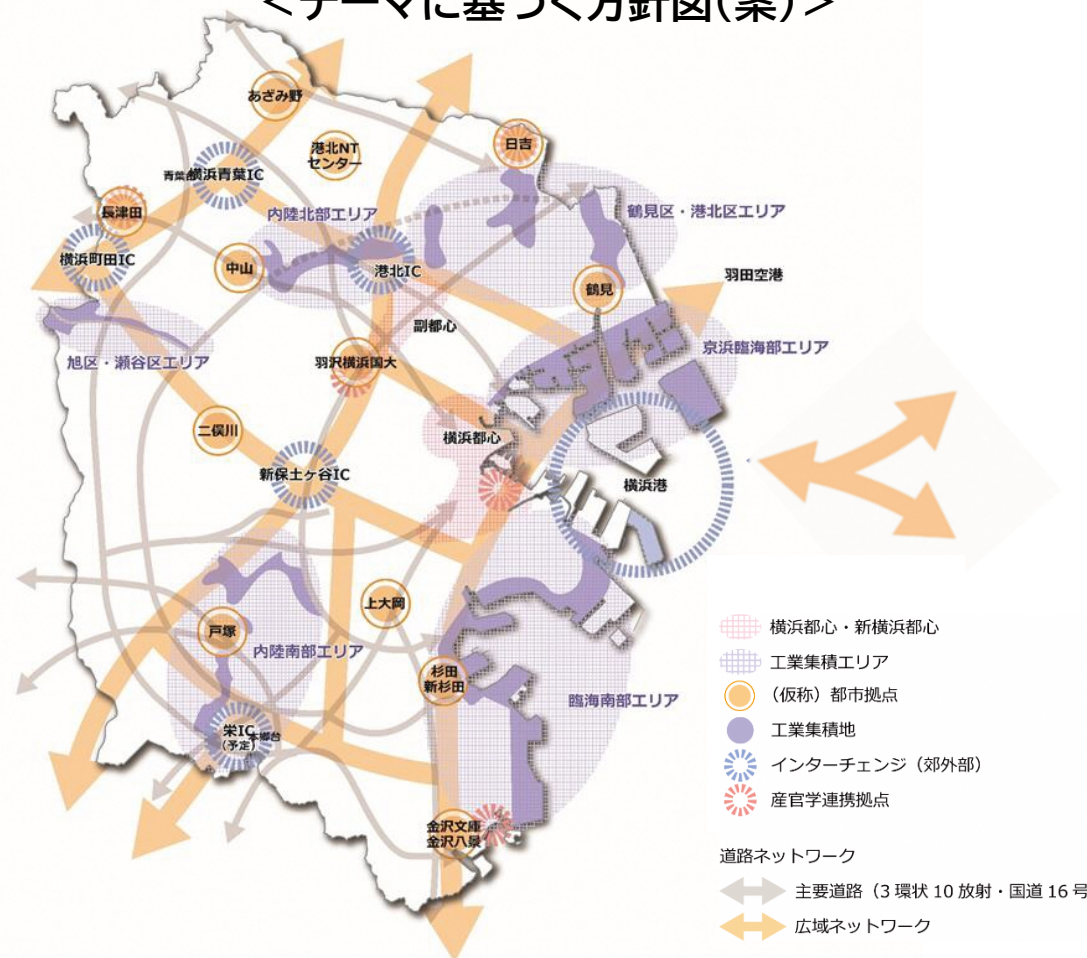
- 産業構造の転換や立地を生かした革新(イノベーション)と創造(クリエイション)の創出環境、戦略的な物流施設の誘致を支援など、経済活動を下支えする都市づくりを目指す

<テーマの方針(案)>

1. 産業構造の転換に対応した戦略的な産業拠点形成
2. 革新(イノベーション)と創造(クリエイション)の創出環境支援
3. 地域課題解決や事業創出に向けた、大学をハブとした産学連携環境支援
4. 立地ポテンシャルを活かした物流施設のあり方
5. 広域的なネットワーク(鉄道・道路)の強化

など

<テーマに基づく方針図(案)>



4. 改定の基本的な考え方（都市マス／テーマと方針：次回以降に議論）

**賑わい
交流**

幾度も訪れたくなる
魅力あふれる都市づくり

テーマ3 幾度も訪れたくなる魅力あふれる都市づくり

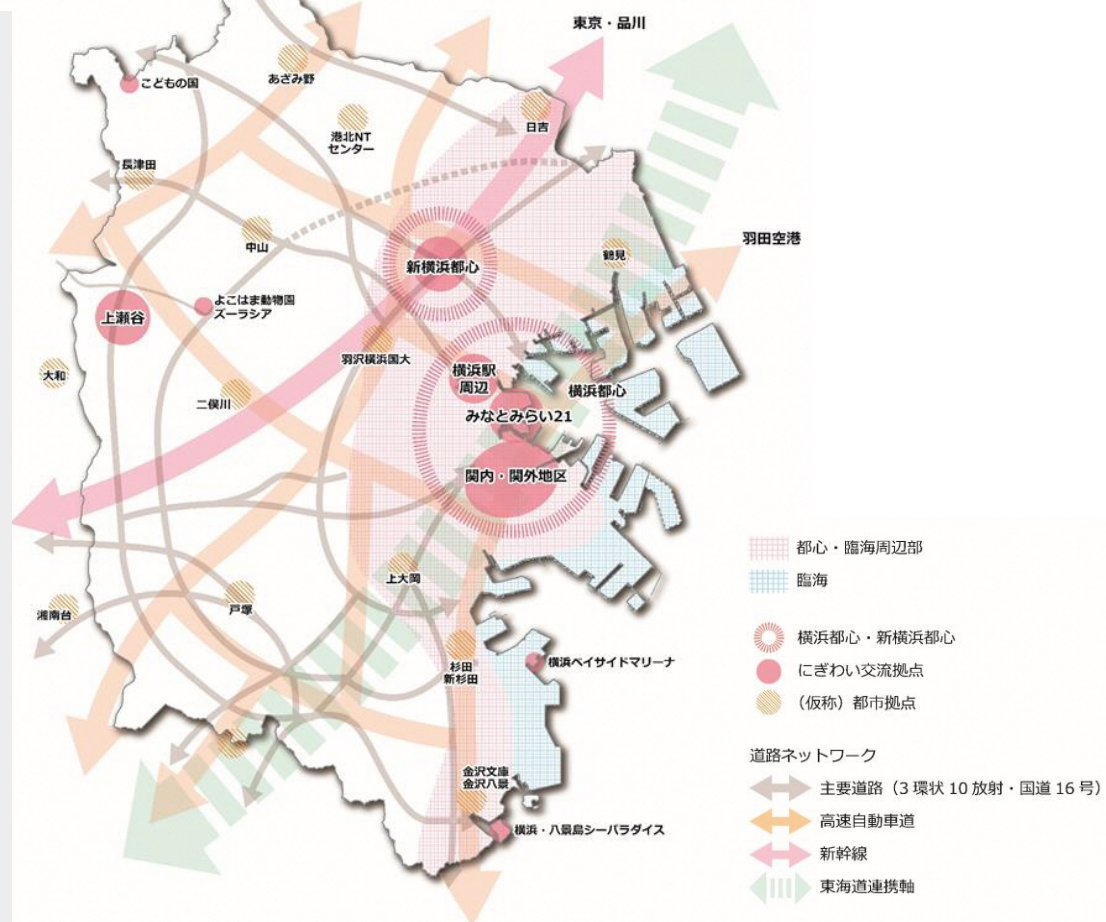
- 交流人口の拡大に向け、中短期滞在や都心のビジネス環境を支える環境の整備や都心部における回遊性の向上、広域ネットワークの構築や歴史・景観等の横浜らしさの魅力の維持・向上を目指す

<テーマの方針(案)>

1. 交流人口拡大に向けた都市づくり
2. 短中期滞在や都心のビジネス環境を支える環境の整備
3. 回遊性の向上
4. 広域交通ネットワークの構築と連動による国内外観光客の誘引
5. 歴史や景観等の横浜らしさの魅力の維持・向上
6. 公共空間の再生・活用による賑わいや居心地の良い空間づくり

など

<テーマに基づく方針図(案)>



自然共生

健康で潤いと憩いのある都市づくり

テーマ4 健康的で潤いと憩いのある都市づくり

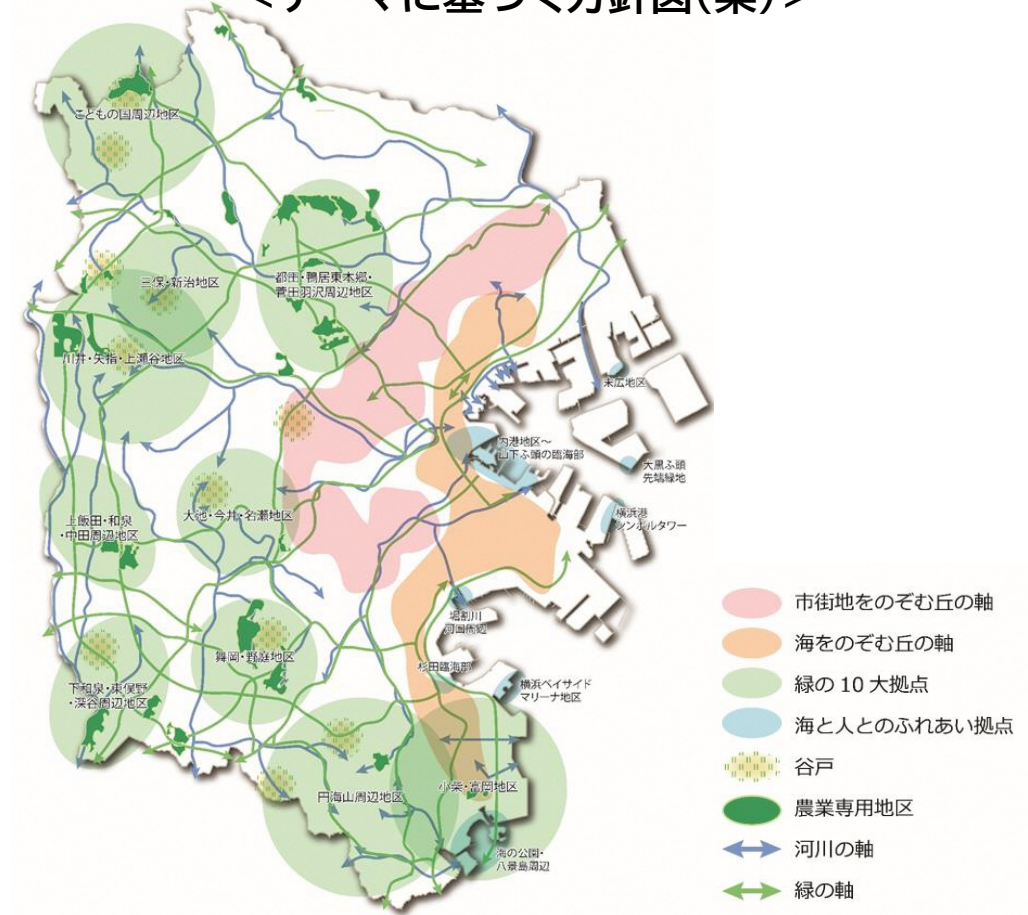
- 身近な農地や緑地、水辺を活かし、健康づくりの場や憩いの場としての環境を整備するとともに、Well Beingな循環型社会を推進する都市づくりを目指す

<テーマの方針(案)>

1. 身近な農地を活かした都市づくり
2. 緑地を活かした都市づくり
3. 水辺を生かした都市づくり
4. 健康づくりの場、憩いの場としての水と緑の活用
5. Well Being(ウェルビーイング)な循環型社会の推進
6. 生物多様性の保全

など

<テーマに基づく方針図(案)>



- 市街地をのぞむ丘の軸
- 海をのぞむ丘の軸
- 緑の10大拠点
- 海と人とのふれあい拠点
- 谷戸
- 農業専用地区
- 河川の軸
- 緑の軸

災害対策

激甚化する自然災害を踏まえた安全・安心の都市づくり

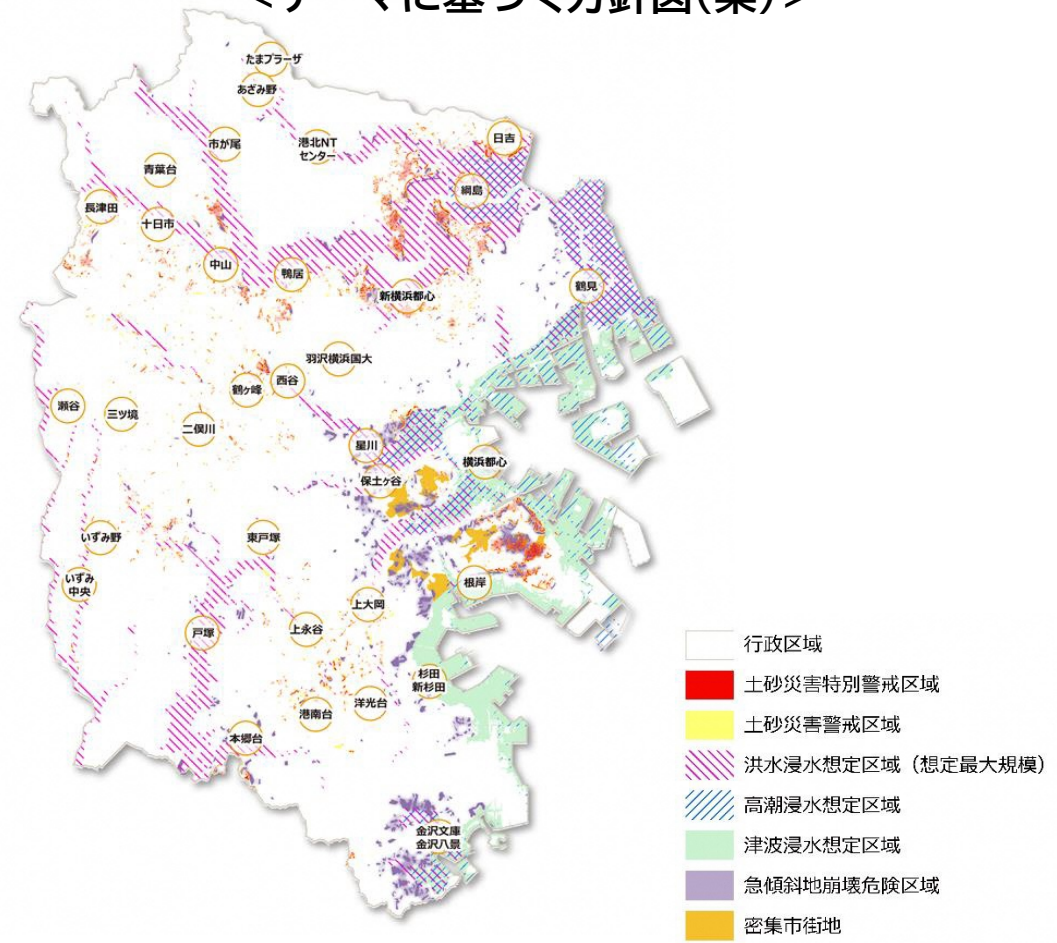
テーマ5 激甚化する自然災害を踏まえた安全・安心の都市づくり

- 既成市街地の防災性の強化や災害時における都市機能の確保など、いざというときに迅速に対応できる防災・減災による総合的な防災都市づくりを目指す

<テーマの方針(案)>

1. 防災・減災による総合的な防災都市づくり
 2. 既成市街地等の防災性の強化
 3. 災害時における都市機能の確保
 4. いざというとき迅速に対応・復興できる備えの用意
- など

<テーマに基づく方針図(案)>



4. 改定の基本的な考え方（都市マス）

都市計画マスタープラン改定の全体像

- ・都市づくりの歴史
- ・都市の変化の兆し(暮らし、経済、交流・賑わい、自然共生、災害対策)

目指すべき横浜の都市像

都市づくりの基本理念

将来の都市構造

テーマと方針



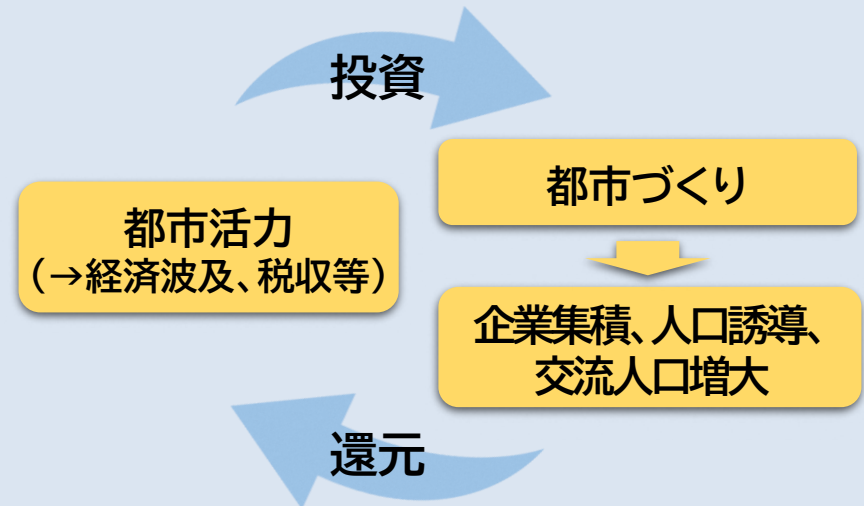
都市像の実現に向けた視点

- ・都市の持続可能な成長
- ・多様な主体との連携
- ・データとデジタル技術
- ・脱炭素
- ・都市デザイン

都市像の実現に向けた視点

○都市の持続可能な成長

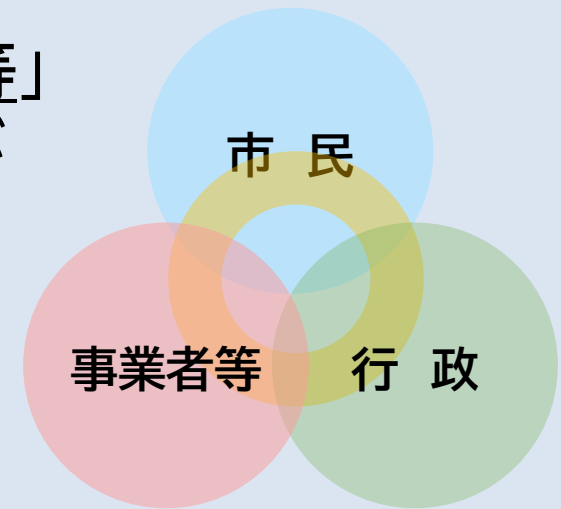
- ・ 賑わいや活力を感じられる都市であるよう、地域特性に応じた企業集積や人口誘導、更に交流人口の増大が必要。
- ・ そのために必要な都市づくりへの投資を行い、還元（都市活力、経済波及・税収等）を獲得していく。
- ・ SDGs の概念を取り入れて都市づくりを進め、持続的な成長を確実なものとする。



都市像の実現に向けた視点

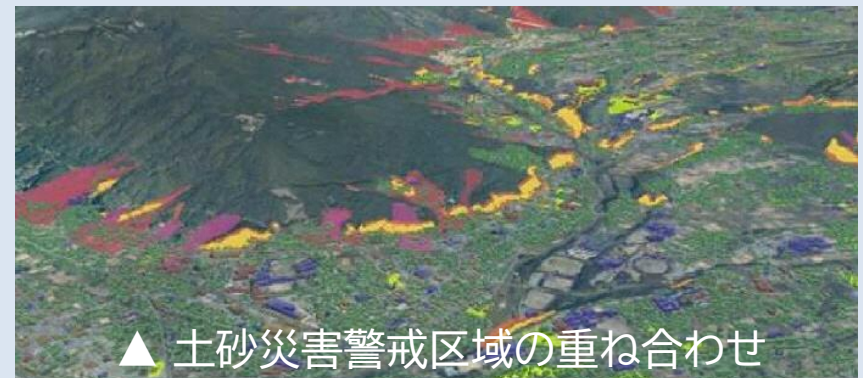
○多様な主体との連携

- ・まちづくりの主体である「市民」「事業者等」「行政」が自らの特性を生かし、それぞれが連携しながら取り組む。
- ・その過程で、小さな試行・実験的な取組から始めていくことも必要。



○データとデジタル技術

- ・都市情報のオープンデータ化や3Dモデル化による、市民に分かりやすい情報発信の検討。



▲ 土砂災害警戒区域の重ね合わせ

都市像の実現に向けた視点

○脱炭素

- ・「Zero Carbon Yokohama」の実現に向けて、省エネ・再エネ・エネルギーマネジメント等に取り組む。



Zero Carbon
Yokohama

横浜市は目指しています

2050年までの
脱炭素化

○都市デザイン

プロジェクト × 都市デザイン =
コントロール

「横浜の個性と魅力を磨く」

みなとみらい21地区



港北NT



横浜ベイブリッジ



日本大通り

1. 都市計画マスタープラン等とは
2. 横浜市の概況と歴史
3. 現行プランの振り返り
4. 改定の基本的な考え方
5. **次回以降の進め方**

5. 次回以降の進め方（小委員会ごとの主な検討内容）

主な検討内容

今回

第1回

【令和4(2022)年7月14日】

- ・現行都市計画マスタープランの振り返り
- ・改定の基本的な考え方

第2回

【令和4(2022)年9月頃】

次回以降

第1回小委員会の議論を受けた事務局案をお示し

- ・改定内容① 目指すべき都市像
- ・改定内容② 都市づくりのテーマと方針
- ・改定内容③ 都市像の実現に向けた視点

第4回

【令和5(2023)年1月頃】

- ・第1～3回の振り返り
- ・答申原案
(都市計画マスタープラン、整開保等、線引き見直し基準)

第5回

【令和5(2023)年3月頃】

- ・答申(案)